

4.5 希少種の出現状況

県 RDB に掲載されている魚種は、絶滅と野生絶滅した種を除くと 44 種で、その多くは純淡水魚と通し回遊魚である。そのうち今回の調査では、10 科 29 種が確認された（表 4.4）。県 RDB に掲載されている魚種で、今回確認できなかった魚種の多くは、ハゼ科の周縁魚であり、調査地点と生息場所の相違により確認できなかった可能性も考えられる。出現した希少種は、純淡水魚の 16 種が最多で、次いで通し回遊魚が 12 種であった。希少種の純淡水魚、特に在来の純淡水魚の多くが確認されたが、一部の魚種では個体数が少なく、また、生息水域が限られるなど厳しい状況であることに変わりはない。出現した 29 種のうち、コイとスミウキゴリが最も多く 19 水系で確認された。アカザ、イッセンヨウジおよびテングヨウジは 1 水系のみの確認であった。

希少種が多く出現した水域は、相模川水系が最も多く 18 種、次いで金目川水系と酒匂川水系の 17 種であり、その他の水系でも県中央部から西部にかけて希少種が多い傾向が見られ、これらの水系は、希少種の生息に必要な環境が存在するなど、希少種の生存の重要な役割を担っていると考えられる。希少種の確認が最も少なかったのは、宮川水系の 1 種で、次いで侍従川水系と松越川水系の 3 種で、東京湾地域と三浦半島地域に少ない傾向が見られた。

表 4.4 希少種の出現状況

科名	和名	県RDB希少種区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	合計
			多摩川	鶴見川	帷子川	大岡川	宮川	侍従川	平作川	松越川	下山川	森戸川(葉山)	田越川	滑川	神戸川	境川	引地川	相模川	金目川	葛川	中村川	森戸川(小田原)	酒匂川	山王川	早川	新崎川	千歳川	
ヤツメウナギ科	1 スナヤツメ	絶滅危惧 I B 類																●										2
コイ科	2 コイ	情報不足	●	●	●				●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19
	3 キンブナ	絶滅危惧 I B 類										●	●									●				●		6
	4 アブラハヤ	準絶滅危惧	●	●		●				●	●	●	●		●	●	●	●	●	●			●	●	●			17
	5 タカハヤ	絶滅危惧 I B 類				●																				●	●	3
	6 マルタ	絶滅危惧 II 類	●	●		●																						3
	7 ウグイ	準絶滅危惧	●		●													●	●	●	●	●	●	●	●			11
	8 カマツカ	準絶滅危惧	●	●	●													●	●	●	●	●	●	●				8
	9 ニゴイ	絶滅危惧 II 類	●															●	●				●					4
	ドジョウ科	10 シマドジョウ	準絶滅危惧	●		●	●							●		●		●	●	●	●			●	●	●		
11 ホトケドジョウ		絶滅危惧 I B 類		●	●	●									●	●		●	●		●		●					9
ナマズ科	12 ナマズ	注目種	●	●											●						●	●					6	
アカザ科	13 アカザ	絶滅危惧 I A 類																										1
サケ科	14 ヤマメ	絶滅危惧 I A 類																●	●			●	●	●	●	●	●	7
	15 アマゴ	絶滅危惧 I A 類																●					●	●	●	●	●	5
メダカ科	16 メダカ	絶滅危惧 I A 類	●	●	●			●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14
ヨウジウオ科	17 イッセンヨウジ	注目種																●									1	
	18 テングヨウジ	注目種																	●									1
カジカ類	19 カマキリ	絶滅危惧 I A 類																●	●		●		●					4
	20 カジカ	絶滅危惧 II 類																●	●				●					3
ハゼ科	21 カワアナゴ	絶滅危惧 I B 類							●						●		●											3
	22 ボウズハゼ	準絶滅危惧										●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●	●	14
	23 ミミズハゼ	情報不足									●				●	●								●		●		5
	24 スミウキゴリ	準絶滅危惧	●	●				●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	19
	25 ウロハゼ	注目種		●			●																					3
	26 ゴクラクハゼ	準絶滅危惧							●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	14
	27 オオヨシノボリ	準絶滅危惧							●						●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	13
	28 ルリヨシノボリ	準絶滅危惧																●			●	●	●	●	●	●	●	8
	29 クロヨシノボリ	準絶滅危惧										●	●	●							●	●	●	●	●	●	●	3
合計			10	9	6	5	1	3	5	3	5	7	8	9	7	13	8	18	17	6	8	10	17	11	10	10	8	

以下に本調査で採集確認された希少種の概要を示す。また、採集された主な希少種の写真を図 4.5 示した。

・スナヤツメ *Lethenteron reissneri* 【絶滅危惧 I B 類】

本種は県内各地の湧水のある谷戸などに生息していたが、都市化にともなう湧水域の減少などにより生息地が激減した。今回の調査では、酒匂川水系と相模川水系の 2 地点のみで確認された。両地点の採集個体数も少なく、本種の生息域は極めて限定されている。

・コイ *Cyprinus carpio* 【情報不足】

本種は、過去から移植が盛んに行われ外来種でもあるが、日本在来の系統と国外から移入された系統の 2 系統が存在することが明らかにされた (Mabuchi et al., 2005, 2008)。このため、県内に在来の個体群が生息する可能性もあるが、詳細に調査が行われたことはないの、県 RDB で情報不足とされている (勝呂・瀬能, 2006)。今回の調査では、19 水系で確認された。

・キンブナ *Carassius auratus* subsp.2 【絶滅危惧 I B 類】

東日本を中心に、河川の中下流域や水田、用水路等に生息する。キンブナと比較し、生息水域や個体数はかなり少ないと推定されている。今回の調査では、6 水系で確認された。

・アブラハヤ *Phoxinus lagowskii steindachneri* 【準絶滅危惧】

本種は、河川の上流域から中流域の淵や平瀬に生息する。今回の調査では 17 水系で確認され、また最も多くの 108 地点に出現した。相模川以西の主要な水系では、多くの地点から出現し健全であると判断されるが、県東部の東京湾地域と三浦半島地域の水系では、出現地点が少なく、都市化などの影響を受けており、今後の動向を注視する必要がある。なお、西湘地域の千歳川と新崎川ではアブラハヤは記録されていないが、同属のタカハヤが記録されている。また、東京湾地域の大岡川では両種が確認されており、遺伝的攪乱が危惧されている (樋口・渡辺, 2005)。

・タカハヤ *Phoxinus oxycephalus jouyi* 【絶滅危惧 I B 類】

外見は前種のアブラハヤによく似た種である。太平洋側では静岡県以西に分布するとされていたが、西湘地域の新崎川水系と白糸川水系が分布の東限とする意見がある (石原, 2001)。神奈川県 RDB ではその意見に従い、在来種と位置付けている (勝呂・瀬能, 2006)。今回の調査では、大岡川水系、新崎川水系および千歳川水系で確認されたが、大岡川水系は移入による二次的な分布と考えられている (樋口ほか, 2005)。

・マルタ *Tribolodon brandti* 【絶滅危惧 II 類】

東京湾・富山湾以北の比較的大きい河川に分布する。通し回遊魚 (溯河回遊魚) で、若魚は汽水域に生息することが多く、成魚も内湾などに多い。多摩川水系ではかつて普通に見られたという (勝呂・瀬能, 2006)。今回の調査では、多摩川水系、鶴見川水系および大岡川水系の東京湾地域の水系のみで確認された。

・ウグイ *Tribolodon hakonensis* 【準絶滅危惧】

瀬戸内側の一部と琉球列島以外のほぼ日本全国の河川本流域の上流から河口域、山間の湖沼などに広く分布する。今回の調査では、東京湾地域と相模川以西の11水系で確認された。

・カマツカ *Pseudogobio esocinus esocinus* 【準絶滅危惧】

岩手県、山形県以南の河川の中・下流域や湖の沿岸やこれに連絡する灌漑用水路の砂底、砂礫底に生息する。県内河川では、砂礫底が減少しており、本種の生息域も限られてきている。今回の調査では、8水系で確認された。

・ニゴイ *Hemibarbus barbus* 【絶滅危惧Ⅱ類】

日本固有種で、本州と四国のほぼ全域と九州北西部の大きな河川の中・下流域に生息する。今回の調査では、多摩川水系、相模川水系、金目川水系及び酒匂川水系の大きな水系のみで確認された。

・シマドジョウ *Cobitis biwae* 【準絶滅危惧】

山口県西部を除く本州と四国の河川の中・下流域にかけての砂底ないし砂礫底に生息する。本種も砂礫底の減少により生息域が限られてきている。今回の調査では、12水系で確認された。

・ホトケドジョウ *Lefua echigonia* 【絶滅危惧ⅠB類】

日本固有種で、青森県や中国地方西部を除く本州と四国東部に分布し、流れの緩やかな谷戸の細流や湧水のある水路に生息している。県内では、里山や谷戸の消失により本種の生息域が失われており、急速に衰退している。今回の調査では、9水系で確認された。

・ナマズ *Silurus asotus* 【注目種】

本種は、本来は国内外来種であるが、関東地方への分布拡大が近世であること、在来種と調和的に共存していること、本種の存在が良好な水域環境の指標となりうることなどから、本種が注目種に選定された（勝呂・瀬能，2006）。繁殖場所の水田やそれに続く用水路の消失や整備が進み、繁殖が厳しい状況にあると考えられる。今回の調査では、6水系で確認された。

・アカザ *Liobagrus reinii* 【絶滅危惧ⅠA類】

日本固有種で、宮城県、秋田県以南の本州、四国、九州に広く分布し、水の比較的きれいな川の中流から上流の瀬の石の下や間に生息する。今回の調査では、相模川水系の秋山川の1地点で1個体だけ採集された。これまで、県内では1892年の横浜からの記録（Jordan et al., 1913）から途絶えていたが、その後、相模川水系の支流でのみ確認された。その生息範囲は極めて限定されており、個体数も少なく生息に関して厳しい状況にあると考えられる。

・ヤマメ *Oncorhynchus masou masou* 【絶滅危惧ⅠA類】

本種とアマゴとの分布境界が酒匂川付近にあるとしており、本種は河内川等の酒匂川支流（丹沢山地側）に分布するとしているが（大島，1957）、現在の分布は、放流による二次的なものである。

しかし、在来ヤマメの生存の可能性も示唆されていることから（金子ほか，2007）、在来個体群が県 RDB の絶滅危惧 I A 類に選定されている。今回の調査では、7 水系で確認された。

・アマゴ *Oncorhynchus masou ishikawae* 【絶滅危惧 I A 類】

現在の分布は放流による二次的なものではあるが、ヤマメ同様に在来個体群の生存の可能性がある。このため、在来個体群が県 RDB の絶滅危惧 IA 類に選定されている。今回の調査では、5 水系で確認された。

・メダカ *Oryzias latipes* 【絶滅危惧 I A 類】

本種は、平野部の小川や水田周辺の用水路などに生息する。しかし、水田の減少や用水路の整備などが進み生息域が激減し、急速に個体数が減少した。更に、県内河川や湖沼で放流が頻繁に行われた。このため、近年の調査で記録された個体は、国内外来種の可能性が高いが、在来の個体群と特定できる生息地がわずかに存在することから、それらについては県 RDB の絶滅危惧 I A 類に選定されている（勝呂・瀬能，2006）。県内の在来個体群のメダカは、南日本集団東日本型に分類されていたが（酒泉ほか，1999）、最近、それまでの北日本集団（*Oryzias sakaizumii*）と南日本集団（*Oryzias latipes*）が別種として記載された（Asai et al., 2011）。今回の調査では、14 水系で確認された。

・イッセンヨウジ *Microphis leiaspis* 【注目種】

本種は、通し回遊魚（両側回遊魚）で、一生の大部分を純淡水域で生息する南方系のヨウジウオ科魚類であり、黒潮の影響を受ける地域に分布する。本県が分布のほぼ北限にあたり、気候変動や海況、河口付近の環境改変の指標となりうることから注目種に選定されている（勝呂・瀬能，2006）。今回の調査では、三浦半島地域の滑川水系でのみ確認された。

・テングヨウジ *Microphis brachyurus brachyurus* 【注目種】

本種もイッセンヨウジと同様に通し回遊魚（両側回遊魚）で、黒潮の影響を受ける地域に分布する。本県が分布のほぼ北限にあたり、イッセンヨウジと同じ理由で注目種に選定されている（勝呂・瀬能，2006）。今回の調査では、滑川水系でのみ確認された。

・カマキリ *Cottus kazika* 【絶滅危惧 I A 類】

本種は通し回遊魚（降河回遊魚）で神奈川県、秋田県以南の本州、四国、九州に分布する。過去、県内では相模川水系、酒匂川水系などの上流まで分布していたが、溯上能力が低いため、堰の影響などにより著しく減少していた。今回の調査では、相模川水系、金目川水系、中村川水系および山王川水系の県中央部から県西部の水系で確認された。

・カジカ *Cottus pollux* 【絶滅危惧 II 類】

日本固有種で本州のほぼ全域と四国、九州北西部の河川の上流域の瀬の石礫底に生息する。かつてカジカ大卵型といわれていたもので、河川陸封型である。本種の主な生息地である丹沢山地では、

周辺の森林環境の荒廃、砂防堰堤の影響などで生息に適した河川が減少している。今回の調査では、相模川水系、金目川水系および酒匂川水系の3水系のみであったが、36地点で記録されていた。

・カワアナゴ *Eleotris oxycephala* 【絶滅危惧IB類】

本種は通し回遊魚（両側回遊魚）で、茨城県以南の本州太平洋側の河川の汽水域から下流域にかけて生息する。今回の調査では、平作川水系、境川水系および相模川水系で確認された。

・ボウズハゼ *Sicyopterus japonicus* 【準絶滅危惧】

本種は通し回遊魚（両側回遊魚）で、関東地方以西の太平洋側から琉球列島に分布し、日本海側ではみられない。河川の中・上流域にかけて、その食性と関係して（付着藻類食）流れのある瀬に生息する。今回の調査では14水系河川で確認されたが、東京湾地域の水系からは出現しなかった。

・ミミズハゼ *Luciogobius guttatus* 【情報不足】

本種は通し回遊魚（両側回遊魚）で、北海道から沖縄島までの各地に分布し、川の汽水域や下流域から淡水が流入している海岸の潮間帯まで広く生息する。今回の調査では、5水系で確認された。

・スミウキゴリ *Gymnogobius petschiliensis* 【準絶滅危惧】

本種は通し回遊魚（両側回遊魚）で、北海道の日高地方から九州の屋久島までの河川に分布する。主に河口域から下流域に生息するが、小河川では上流域まで溯上する。本種の主な生息場所である河口域から下流域にかけては、河川改修による環境改変が著しく、その影響が懸念される。今回の調査では、19水系で確認された。

・ウロハゼ *Glossogobius olivaceus* 【注目種】

本種は周縁魚で、茨城県、新潟県以南の本州、四国、九州に分布し、主に汽水域に生息する。本種は、県下で初めて記録されて以来、増加傾向にあり、暖冬傾向と関係があると考えられることから、注目種に選定された（勝呂・瀬能，2006）。今回の調査では、鶴見川水系、宮川水系および境川水系で確認された。

・ゴクラクハゼ *Rhinogobius giurinus* 【準絶滅危惧】

本種は通し回遊魚（両側回遊魚）で、茨城・秋田両県以南の本州、四国、九州、琉球列島に分布し、河川の下流域や汽水域に生息する。西湘、湘南および三浦半島地域の相模湾流入河川の多くから出現し、東京湾地域からの記録は平作川水系のみであった。過去、県内からの記録は少なかったが、近年多くの河川から記録されている（齋藤ほか，2012）。今回の調査では、14水系で確認された。

・オオヨシノボリ *Rhinogobius fluviatilis* 【準絶滅危惧】

本種は通し回遊魚（両側回遊魚）で、北海道を除く日本全国に分布し、川の中流から上流域の早瀬から淵頭にかけての急流部に生息する。今回の調査で、ダム湖上流の河川からも出現したことか

ら、これは陸封された個体と考えられる。今回の調査では、13水系で確認されたが、東京湾地域からは、平作川水系のみであった。

・ルリヨシノボリ *Rhinogobius* sp.CO 【準絶滅危惧】

本種は通し回遊魚（両側回遊魚）で、北海道東部・琉球列島を除く日本全国に分布し、川の中流から上流域の早瀬から淵頭にかけての急流部に生息するが、オオヨシノボリとは異なり、小河川に分布する傾向がある。今回の調査では、県東部からは記録されず、金目川以西の県西部の8水系で確認された。

・クロヨシノボリ *Rhinogobius brunneus* 【準絶滅危惧】

本種は通し回遊魚（両側回遊魚）で、北海道・東北地方を除く日本全国に分布し、川の中流から上流域の淵に生息する。流程が数 km 以下の小さい河川に集中する傾向がある。今回の調査では、三浦半島地域の森戸川水系（葉山）、田越川水系および滑川水系の3地点のみで確認された。ヨシノボリ属魚類の中では、最も少ない出現地点数であった。過去には、西湘地域の水系で記録されていたが、今回確認されなかったことを考え合わせると、県内のヨシノボリ属魚類の中では、最も絶滅の危機が高い種と考えられる（齋藤ほか，2012）。

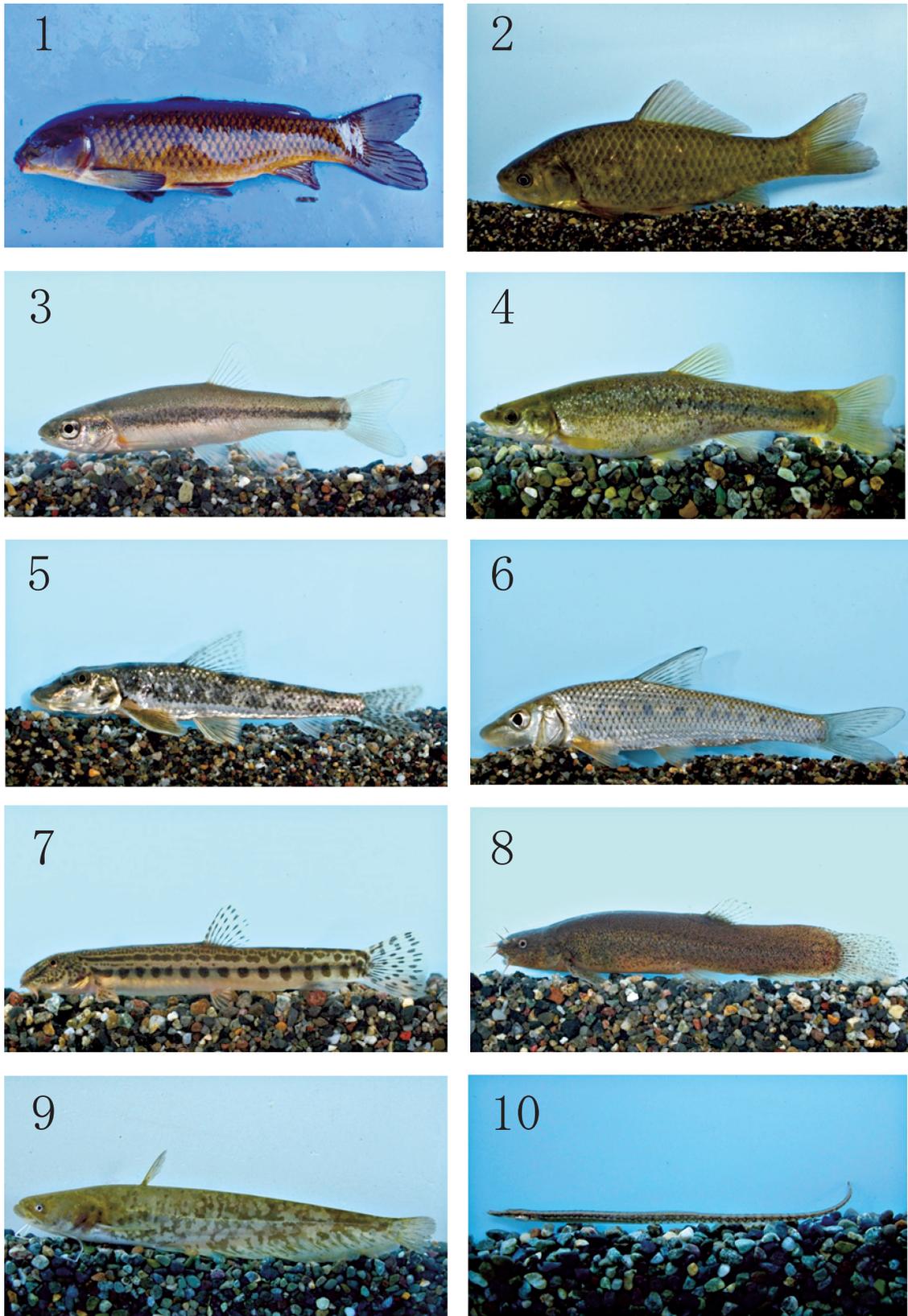


図 4.5 県内河川で採集された主な希少種



- 1: コイ, 2: キンブナ, 3: アブラハヤ, 4: タカハヤ, 5: カマツカ
6: ニゴイ, 7: シマドジョウ, 8: ホトケドジョウ, 9: ナマズ, 10: イッセンヨウジ
11: カマキリ, 12: カジカ, 13: カワアナゴ, 14: スミウキゴリ, 15: ウロハゼ
16: オオヨシノボリ, 17: ルリヨシノボリ, 18: クロヨシノボリ

図 4.5 県内河川で採集された主な希少種 (続き)

5 河川別調査結果

河川別に夏季と冬季調査結果の出現魚種と個体数を合わせて、表にとりまとめた。また、希少種と外来種について記述した。

5.1 多摩川

水系全体で8科22種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が16種（在来種：7種、国内外来種：7種、国外外来種：1、不明種：1種）、通し回遊魚は6種であった。周縁魚は確認されなかった。河川規模のわりには通し回遊魚のうち、ハゼ科魚類が少なかった。両地点とも17種が確認され、その多くは、純淡水魚のコイ科魚類であった。国内外来種はオイカワなど7種が確認され、国外外来種は、コクチバスが両地点で確認された。希少種は、アブラハヤ、マルタなど10種が確認された。マルタは昭和30年代には本水系で普通に見られたが、高度経済成長期に一時期に姿を消し、その後復活した（勝呂・瀬能，2006）。現在は漁協により放流もされている。

表 5.1 多摩川の出現種と個体数

科名	和名	St.1	St.2	出現地点数	希少種	外来種	
		稲田堤 (二ヶ領 上河原堰 堤下)	二子玉川 (新二子 橋上)			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ	1		1			
コイ科	2 コイ		4	1	情報不足		国内
	3 ゲンゴロウブナ	1		1			国内
	4 ギンブナ	18	5	2			
	5 オイカワ	37	218	2			国内
	6 カワムツ	7		1			国内
	7 アブラハヤ	9		1	準絶滅 危惧		
	8 マルタ		81	1	絶滅危惧 Ⅱ類		
	9 ウグイ	13	78	2	準絶滅 危惧		
	10 タモロコ	66	17	2			国内
	11 カマツカ	5	4	2	準絶滅 危惧		
	12 ニゴイ		2	1	絶滅危惧 Ⅱ類		
	13 スゴモロコ	32	2	2			国内
	ドジョウ科	14 ドジョウ	3	3	2		
15 シマドジョウ		5	38	2	準絶滅 危惧		
ナマズ科	16 ナマズ	4	1	2	注目種		国内
アユ科	17 アユ	14	3	2			
メダカ科	18 メダカ	3		1	絶滅危惧 ⅠA類		
サンフィッシュ科	19 コクチバス	11	2	2		特定 外来生物	国外
ハゼ科	20 スミウキゴリ		4	1	準絶滅 危惧		
	21 ウキゴリ		10	1			
	22 ヌマチチブ	6	15	2			
合計種数		17	17	22	10	1	8

5.2 鶴見川

水系全体で12科32種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が17種（在来種：6種、国内外来種：6種、国外外来種：4種、不明種：1種）、通し回遊魚は8種、周縁魚は7種であった。多くの地点に出現した魚種は、コイ、オイカワ、タモロコおよびドジョウが5地点に出現した。多くの魚種が出現した地点は、出現種数が同じでも、上流ではコイ科魚類が主体で、通し回遊魚は少なく、中流では、通し回遊魚が主体になり、コイ科魚類が少ないという構成に違いが見られた。国内外来種はオイカワなど6種が確認された。このうち、カワヨシノボリは2005年に本水系で初めて確認されたもので（樋口・福嶋，2007）、今回は3地点に出現した。国外外来種はタイリクバラタナゴなど4種が確認された。希少種はアブラハヤ、マルタ、ホトケドジョウなど9種が確認された。

表 5.2 鶴見川の出現種と個体数

科名	和名	St.3	St.4	St.5	St.6	St.7	St.8	St.9	出現地点数	希少種	外来種	
		寺家橋	千代橋	堀の内橋	落合橋	亀の甲橋	井田公園 脇	大綱橋			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ		1		2	10		21	4			
ニシン科	2 コノシロ							4	1			
コイ科	3 コイ	5	7	1	5			1	5	情報不足		国内
	4 ギンブナ		11		4				2			
	5 キンギョ		1						1			国内
	6 タイリクバラタナゴ		2					2	2		要注意 外来生物	国外
	7 オイカワ	84	160	1	22	32			5			国内
	8 アブラハヤ		1	15	10				3	準絶滅 危機		
	9 マルタ							1	1	絶滅危機 II類		
	10 モツゴ	3	22		7	2		1	5			
	11 タモロコ	7	68		37	1			4			国内
	12 カマツカ		12		11				2	準絶滅 危機		
ドジョウ科	13 ドジョウ	4	1	37	5		24		5			
	14 カラドジョウ	3							1		要注意 外来生物	国外
	15 ホトケドジョウ			1					1	絶滅危機 I B類		
ナマズ科	16 ナマズ		1		3				2	注目種		国内
アユ科	17 アユ	2			1				2			
カダヤシ科	18 カダヤシ				2				1		特定 外来生物	国外
メダカ科	19 メダカ	13	12		24				3	絶滅危機 I A類		
スズキ科	20 スズキ							3	1			
サンフィッシュ科	21 ブルーギル				1				1		特定 外来生物	国外
ボラ科	22 ボラ					3		3	2			
ハゼ科	23 スミウキゴリ					6	2	3	3	準絶滅 危機		
	24 ウキゴリ					4	7		2			
	25 ビリンゴ					6		28	2			
	26 ウロハゼ							6	1	注目種		
	27 マハゼ					3		18	2			
	28 アシシロハゼ							3	1			
	29 アベハゼ							3	1			
	30 トウヨシノボリ(偽橙色型)	1				1			2			
	31 カワヨシノボリ	59	25		14				3			国内
	32 スマチチブ					52	9	39	3			
合計種数		10	14	5	15	11	4	15	32	9	4	10

5.3 帷子川

水系全体で5科15種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が12種（在来種：7種、国内外来種：4種、不明種：1種）、通し回遊魚は3種であった。周縁魚は確認されなかった。両地点とも10種が確認されたが、その多くは、純淡水魚のコイ科魚類とドジョウ科魚類で構成され、通し回遊魚のうち、ハゼ科魚類が少なかった。国内外来種はオイカワなど4種が確認された。国外外来種は確認されなかった。希少種はホトケドジョウなど6種が確認された。

表 5.3 帷子川の出現種と個体数

科名	和名	St.10	St.11	出現 地点数	希少種	外来種	
		大貫橋	鶴舞橋			法令による区分	国内・国外の区分
コイ科	1 コイ	9	1	2	情報不足		国内
	2 ギンブナ	23		1			
	3 フナ属の一種	2		1			
	4 オイカワ	719	26	2			国内
	5 ウグイ		2	1	準絶滅 危機		
	6 モツゴ	61		1			
	7 タモロコ	16		1			国内
	8 ホンモロコ		1	1			国内
	9 カマツカ		2	1	準絶滅 危機		
ドジョウ科	10 ドジョウ	9	2	2			
	11 シマドジョウ	4	4	2	準絶滅 危機		
	12 ホトケドジョウ	9		1	絶滅危機 I B類		
アユ科	13 アユ		26	1			
メダカ科	14 メダカ	5		1	絶滅危機 I A類		
ハゼ科	15 トウヨシノボリ(偽橙色型)	59	31	2			
	16 ヌマチチブ		1	1			
合計種数		10	10	16	6	0	4

5.4 大岡川

水系全体で3科9種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が7種（在来種：5種、国内外来種：2種）、通し回遊魚は2種であった。周縁魚は確認されなかった。両地点とも6種が確認されたが、その多くは、純淡水魚のコイ科魚類とドジョウ科魚類で構成され、通し回遊魚は少なく、マルタとウキゴリだけであった。アブラハヤ、ドジョウおよびシマドジョウは全地点に出現した。国内外来種はオイカワとカワヨシノボリが確認された。なお、本水系のタカハヤは移入による二次的な分布と考えられている（樋口ほか，2005）。アブラハヤと同じ水域に生息しており、遺伝的攪乱が危惧されている（樋口・渡辺，2005）。国外外来種は確認されなかった。希少種はアブラハヤ、ホトケドジョウなど5種が確認された。

表 5.4 大岡川の出現種と個体数

科名	和名	St.12	St.13	出現 地点数	希少種	外来種	
		水取沢	日下橋			法令による 区分	国内・国 外の区分
コイ科	1 オイカワ		5	1			国内
	2 アブラハヤ	292	1	2	準絶滅 危惧		
	3 タカハヤ	146		1	絶滅危惧 I B類		
	4 マルタ		1	1	絶滅危惧 II類		
ドジョウ科	5 ドジョウ	2	7	2			
	6 シマドジョウ	40	56	2	準絶滅 危惧		
	7 ホトケドジョウ	2		1	絶滅危惧 I B類		
ハゼ科	8 ウキゴリ		99	1			
	9 カワヨシノボリ	1		1			国内
合計種数		6	6	9	5	0	2

5.5 宮川

水系全体で5科9種の魚類が確認された。そのうち、通し回遊魚は3種、周縁魚は6種が確認された。本水系は純淡水魚が確認されず、多くが周縁魚で構成されていた。これは、上流の地点で確認されなかったためと考えられる。国内・国外外来種ともに確認されなかった。希少種としては県RDBで注目種のウロハゼが確認された。本種は主に汽水域に生息し、鶴見川水系では増加傾向にあるということから、それらの個体が本水系で確認された可能性がある。

表 5.5 宮川の出現種と個体数

科名	和名	St.14	St.15	出現 地点数	希少種	外来種	
		宮川上流 (市民の 森入口)	宮川下流 (宮川橋)			法令によ る区分	国内・国 外の区分
ウナギ科	1 ウナギ		1	1			
タイ科	2 クロダイ		1	1			
ボラ科	3 ボラ		18	1			
ハゼ科	4 ニクハゼ		2	1			
	5 ビリンゴ		178	1			
	6 ウロハゼ		1	1	注目種		
	7 マハゼ		29	1			
	8 チチブ		191	1			
フグ科	9 クサフグ		5	1			
合計種数		0	9	9	1	0	0

5.6 侍従川

水系全体で5科9種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が3種（在来種：1種、国内外来種：1種、不明種：1種）、通し回遊魚は6種であった。周縁魚は確認されなかった。上流のSt.16では通し回遊魚のスマウキゴリのみが貧相な魚類相であった。下流のSt.17では、純淡水魚のコイ科魚類と通し回遊魚で構成されていた。外来種は、国内外来種のコイのみで、国外外来種は確認されなかった。希少種はスマウキゴリなど3種が確認された。

表 5.6 侍従川の出現種と個体数

科名	和名	St.16	St.17	出現 地点数	希少種	外来種	
		侍従川上 流(金の 橋)	侍従川下 流(長島 橋)			法令によ る区分	国内・国 外の区分
ウナギ科	1 ウナギ		2	1			
コイ科	2 コイ		1	1	情報不足		国内
	3 ギンブナ		1	1			
アユ科	4 アユ		1	1			
メダカ科	5 メダカ		19	1	絶滅危惧 IA類		
ハゼ科	6 スマウキゴリ	6		1	準絶滅 危惧		
	7 ウキゴリ		13	1			
	8 ビリngo		105	1			
	9 チチブ		281	1			
合計種数		1	8	9	3	0	1

5.7 平作川

水系全体で4科12種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が3種（在来種：1種、国内外来種：1種、不明種：1種）、通し回遊魚は6種であった。周縁魚は3種であった。上流のSt.18ではアブラハヤとオオヨシノボリの上流域を主な生息場所とする希少種のみ確認された。下流のSt.19では、純淡水魚の出現は少ないが、通し回遊魚と周縁魚が主体の構成であった。外来種は、国内外来種のコイのみで、国外外来種は確認されなかった。希少種はアブラハヤ、カワアナゴなど5種が確認された。

表 5.7 平作川の出現種と個体数

科名	和名	St.18	St.19	出現 地点数	希少値	外来種	
		池上神社 入口	真崎橋			法令によ る区分	国内・国 外の区分
ウナギ科	1 ウナギ		11	1			
コイ科	2 コイ		57	1	情報不足		国内
	3 フナ属の一種		1	1			
	4 アブラハヤ	36		1	準絶滅 危惧		
ボラ科	5 ボラ		3	1			
ハゼ科	6 カワアナゴ		4	1	絶滅危惧 IB類		
	7 ウキゴリ		4	1			
	8 アシシロハゼ		5	1			
	9 アベハゼ		3	1			
	10 ゴクラクハゼ		4	1	準絶滅 危惧		
	11 オオヨシノボリ	2		1	準絶滅 危惧		
	12 チチブ		18	1			
合計種数		2	10	12	5	0	1

5.8 松越川

本水系で3科7種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が在来種のみ2種、通し回遊魚は5種であった。周縁魚は確認されなかった。外来種は、国内・国外外来種ともに確認されなかった。希少種はアブラハヤなど3種が確認された。出現魚種は、主に中・下流域に多くみられる通し回遊魚で構成されていた。

表 5.8 松越川の出現種と個体数

科名	和名	St.20	出現 地点数	希少種	外来種	
		佐島橋			法令による区分	国内・国外の区分
コイ科	1 アブラハヤ	12	7	準絶滅 危惧		
ドジョウ科	2 ドジョウ	95	7			
ハゼ科	3 スミウキゴリ	2	6	準絶滅 危惧		
	4 ゴクラクハゼ	7	5	準絶滅 危惧		
	5 シマヨシノボリ	151	5			
	6 トウヨシノボリ(偽橙色型)	18	5			
	7 ヌマチチブ	4	5			
合計種数		7	7	3	0	0

5.9 下山川

水系全体で8科15種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が5種（在来種：3種、国内外来種：1種、不明種：1種）、通し回遊魚は7種、周縁魚は3種であった。上流では主に純淡水魚、下流では、通し回遊魚と周縁魚で構成されていた。国内外来種はオイカワが全地点で確認されたが、国外外来種は確認されなかった。希少種はアブラハヤなど5種が確認された。

表 5.9 下山川の出現種と個体数

科名	和名	St.21	St.22	St.23	出現 地点数	希少種	外来種	
		不動橋	上山橋	白石橋			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ		1	44	2			
コイ科	2 ギンブナ			3	1			
	3 オイカワ	1232	88	983	3			国内
	4 アブラハヤ	59	174		2	準絶滅 危惧		
ドジョウ科	5 ドジョウ	129	4	1	3			
アユ科	6 アユ		1	6	2			
メダカ科	7 メダカ			5	1	絶滅危惧 I A類		
ユゴイ科	8 ユゴイ			3	1			
ボラ科	9 ボラ			12	1			
ハゼ科	10 ミミズハゼ			2	1	情報不足		
	11 スミウキゴリ		4	15	2	準絶滅 危惧		
	12 マハゼ			8	1			
	13 ゴクラクハゼ			98	1	準絶滅 危惧		
	14 シマヨシノボリ	5	208	50	3			
	15 ヌマチチブ			67	1			
合計種数		4	7	14	15	5	0	1

5.10 森戸川（葉山）

水系全体で6科15種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が5種（在来種：3種、国内外来種：2種）、通し回遊魚は8種、周縁魚は2種が確認された。本水系も純淡水魚より通し回遊魚が多いという傾向が見られた。多くの地点に出現した魚種は、シマヨシノボリが全地点に出現した。多くの魚種が出現した地点は、中下流域で、主に通し回遊魚と周縁魚で構成されていた。国内外来種はオイカワが3地点、コイが1地点で確認された。国外外来種は確認されなかった。希少種はキンブナ、アブラハヤ、クロヨシノボリなど7種が確認された。クロヨシノボリは、個体数も少なく、分布は上流域に限定されていた。

表 5.10 森戸川（葉山）の出現種と個体数

科名	和名	St.24	St.25	St.26	St.27	出現 地点数	希少種	外来種	
		上の橋	大山橋上	支川合流 後(中町 橋)	風早橋			法令による 区分	国内・国 外の区分
ウナギ科	1 ウナギ	1		1	42	3			
コイ科	2 コイ				21	1	情報不足		国内
	3 キンブナ			1		1	絶滅危惧 I B類		
	4 オイカワ		1163	49	91	3			国内
	5 アブラハヤ		42	10		2	準絶滅 危惧		
ドジョウ科	6 ドジョウ			407	3	2			
アユ科	7 アユ			1	13	2			
ボラ科	8 ボラ				48	1			
ハゼ科	9 ボウズハゼ			10		1	準絶滅 危惧		
	10 スミウキゴリ			34	12	2	準絶滅 危惧		
	11 マハゼ				1	1			
	12 ゴクラクハゼ				54	1	準絶滅 危惧		
	13 シマヨシノボリ	192	104	188	153	4			
	14 クロヨシノボリ	6				1	準絶滅 危惧		
	15 ヌマチチブ				23	1			
合計種数		3	3	9	11	15	7	0	2

5.11 田越川

水系全体で13科32種と三浦半島地域では最も多くの魚種が確認された。そのうち、純淡水魚が9種（在来種：5種、国内外来種：3種、不明種：1種）、通し回遊魚は11種、周縁魚は12種が確認された。本水系は、純淡水魚より通し回遊魚と周縁魚が多いという傾向が見られた。多くの地点に出現した魚種は、スミウキゴリが全地点、シマヨシノボリが4地点に出現した。下流の地点では、純淡水魚から周縁魚まで20種が出現した。これは、本水系の感潮域が長いとため周縁魚が中流域まで出現したためである。国内外来種はオイカワなど3種が確認された。国外外来種は確認されなかった。希少種はキンブナ、アブラハヤなど8種が確認された。キンブナは1個体のみで貴重な生息地と考えられる。

表 5.11 田越川の出現種と個体数

科名	和名	St.28	St.29	St.30	St.31	St.32	出現地点数	希少種	外来種	
		沼間(逗子I.C.入口)	中原橋	舞台橋(旧ポンプ場横)	丸川橋下	逗子橋			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ		14			37	2			
コイ科	2 コイ		18			1	2	情報不足		国内
	3 キンブナ		8	4		14	3			
	4 キンブナ		1				1	絶滅危惧I B類		
	5 キンギョ					1	1			国内
	6 オイカワ		647	7			2			国内
	7 アブラハヤ	7		1			2	準絶滅危惧		
	8 モツゴ			2			1			
ドジョウ科	9 ドジョウ			1			1			
アユ科	10 アユ		1	12	2		3			
メダカ科	11 メダカ		11	1			2	絶滅危惧I A類		
コチ科	12 マゴチ					1	1			
スズキ科	13 スズキ		1			2	2			
シマイサキ科	14 コトヒキ					1	1			
	15 シマイサキ					8	1			
ユゴイ科	16 ユゴイ		2				1			
クロサギ科	17 クロサギ科					1	1			
ボラ科	18 ボラ		17			4	2			
	19 コボラ					2	1			
ハゼ科	20 ボウズハゼ	14			11		2	準絶滅危惧		
	21 スミウキゴリ	49	1	63	3	6	5	準絶滅危惧		
	22 ウキゴリ		1	1			2			
	23 マハゼ					134	1			
	24 アシシロハゼ					8	1			
	25 ヒナハゼ					88	1			
	26 アベハゼ					10	1			
	27 ゴクラクハゼ		6		2	17	3	準絶滅危惧		
	28 シマヨシノボリ	383	93	161	96		4			
	29 クロヨシノボリ				1		1	準絶滅危惧		
	30 スマチチブ		38	2		50	3			
31 チチブ					3	1				
フグ科	32 コモンフグ					1	1			
合計種数		4	15	11	6	20	32	8	0	3

5.12 滑川

水系全体で 11 科 21 種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が 5 種（在来種：2 種、国内外来種：2 種、不明種：1 種）、通し回遊魚は 11 種、周縁魚は 5 種が確認された。本水系も純淡水魚より通し回遊魚が多いという傾向が見られた。多くの地点に出現した魚種は、スミウキゴリとシマヨシノボリが全地点に出現した。下流の地点ほど通し回遊魚やコイ科魚類が多く確認され、St.36 では合計 19 種と最も多くの種が確認された。国内外来種はコイとオイカワが確認された。国外外来種は確認されなかった。希少種はシマドジョウなど 9 種が確認されたが、今回、ヨウジウオ科の 2 種が出現した。これまで、イッセンヨウジは相模川水系と酒匂川水系でのみ確認され、テングヨウジは滑川水系では 2 例目にあたる（木村，1986）。

表 5.12 滑川の出現種と個体数

科名	和名	St.33	St.34	St.35	St.36	出現 地点数	希少種	外来種	
		朝夷奈切 通下	大刀洗川	明石橋	延命寺橋			法令によ る区分	国内・国 外の区分
ウナギ科	1 ウナギ			2	7	2			
ニシン科	2 コノシロ				2	1			
コイ科	3 コイ				5	1	情報不足		国内
	4 オイカワ			73	19	2			国内
	5 モツゴ				9	1			
ドジョウ科	6 シマドジョウ			101		1	準絶滅 危惧		
アユ科	7 アユ			31	87	2			
メダカ科	8 メダカ				5	1	絶滅危惧 I A類		
ヨウジウオ科	9 イッセンヨウジ				1	1	注目種		
	10 テングヨウジ				1	1	注目種		
シマイサキ科	11 シマイサキ				14	1			
ユゴイ科	12 ユゴイ				11	1			
ボラ科	13 ボラ				46	1			
ハゼ科	14 ボウズハゼ			2	2	2	準絶滅 危惧		
	15 スミウキゴリ	1	56	75	5	4	準絶滅 危惧		
	16 ウキゴリ				17	1			
	17 マハゼ				108	1			
	18 ゴクラクハゼ				73	1	準絶滅 危惧		
	19 シマヨシノボリ	28	124	298	113	4			
	20 クロヨシノボリ	18				1	準絶滅 危惧		
	21 ヌマチチブ				24	1			
合計種数		3	2	7	19	21	9	0	2

5.13 神戸川

水系全体で6科17種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が5種（在来種：3種、国内外来種：2種）、通し回遊魚は10種、周縁魚は2種が確認された。本水系も純淡水魚より通し回遊魚が多いという傾向が見られた。多くの地点に出現した魚種は、シマヨシノボリが全地点に出現した。下流のSt. 39では通し回遊魚を中心に13種と多くの種が確認された。国内外来種はコイとキンギョが確認されたが、国外外来種は確認されなかった。希少種はホトケドジョウ、オオヨシノボリなど7種が確認された。

表 5.13 神戸川の出現種と個体数

科名	和名	St.37	St.38	St.39	出現地点数	希少種	外来種	
		西鎌倉駅前(拾枚橋)	警察犬訓練場奥(広町緑地)	合流後(日坂橋)			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ			7	1			
コイ科	2 コイ			1	1	情報不足		国内
	3 ギンブナ			7	1			
	4 キンギョ		1		1			国内
ドジョウ科	5 ドジョウ	2			1			
	6 ホトケドジョウ		3		1	絶滅危惧IB類		
アユ科	7 アユ	10		25	2			
ボラ科	8 ボラ			2	1			
ハゼ科	9 ボウズハゼ	18		16	2	準絶滅危惧		
	10 ミミズハゼ			2	1	情報不足		
	11 スミウキゴリ	40		19	2	準絶滅危惧		
	12 ウキゴリ			7	1			
	13 マハゼ			1	1			
	14 ゴクラクハゼ			30	1	準絶滅危惧		
	15 シマヨシノボリ	253	33	231	3			
	16 オオヨシノボリ	1			1	準絶滅危惧		
17 ヌマチチブ			109	1				
合計種数		6	3	13	17	7	0	2

5.14 境川

水系全体で13科35種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が15種（在来種：6種、国内外来種：6種、国外外来種：2種、不明種：1種）、通し回遊魚は12種、周縁魚は8種が確認された。全体の約43%を純淡水魚が占めていたが、在来種より外来種が多かった。多くの地点に出現した魚種は、ドジョウが最も多く9地点、次いでアブラハヤ、オイカワの順であった。多くの魚種が出現した地点は、本流のSt. 49の18種が最多で、次いで柏尾川のSt. 48の15種と中下流域に多くの魚種が出現した。国内外来種はオイカワ、カワムツ、カワヨシノボリなど6種が確認され、カワヨシノボリは、限られた水域に多くの個体が確認された。国外外来種は、コイ科のファットヘッドミノーが県内で初めて記録された。その他にオオクチバスが1個体確認された。希少種は上流でホトケドジョウ、下流でカワアナゴが確認されるなど合計13種が出現した。

表 5.14 境川の出現種と個体数

科名	和名	St.40	St.41	St.42	St.43	St.44	St.45	St.46	St.47	St.48	St.49	出現地点数	希少種	外来種	
		小松橋上	本沢(大戸バス停脇)	二国橋	常矢橋(旧境橋)	鶴瀬橋上	上和泉橋	戸塚カントリー下流	青葉橋	笠間大橋	新川名橋			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ									1	6	2			
コイ科	2 コイ				1					3	6	3	情報不足		国内
	3 ギンブナ									2		1			
	4 フナ属の一種										1	1			
	5 オイカワ			149	401	503	78		185	16		6			国内
	6 カワムツ	39		42	5							3			国内
	7 アブラハヤ	254	195	98	1	8	72		113			7	準絶滅危惧		
	8 モツゴ					3						1			
	9 タモロコ			58	91	25			104			4			国内
	10 ファットヘッドミノー					1						1			国外
	ドジョウ科	11 ドジョウ	1		1	47	1	33	15	11	3	1	9		
12 シマドジョウ		26		12	8							3	準絶滅危惧		
13 ホトケドジョウ		22	11									2	絶滅危惧1B類		
ナマズ科	14 ナマズ					1				2	2	注目種		国内	
アユ科	15 アユ								9	2	2				
メダカ科	16 メダカ					1			1		2	絶滅危惧1A類			
スズキ科	17 スズキ										1	1			
シマイサキ科	18 シマイサキ										2	1			
ユゴイ科	19 ユゴイ									1	1	1			
サンフィッシュ科	20 オオクチバス										1	1		特定外来生物	国外
ボラ科	21 ボラ									1	58	2			
ハゼ科	22 カワアナゴ									3		1	絶滅危惧1B類		
	23 ボウスハゼ								2	10		2	準絶滅危惧		
	24 ミズハゼ										1	1	情報不足		
	25 スミウキゴリ										1	1	準絶滅危惧		
	26 ウロハゼ										1	1	注目種		
	27 マハゼ											21	1		
	28 アンシロハゼ										2	1			
	29 ゴクラクハゼ									18	21	2	準絶滅危惧		
	30 シマヨシノボリ							9	10	143	45	4			
	31 オオヨシノボリ								3	3		2	準絶滅危惧		
	32 トウヨシノボリ(橙色型)						1					1			
	33 トウヨシノボリ(偽橙色型)								1		1	2			
	34 カワヨシノボリ			278	1							2			国内
	35 スマチチブ									71	188	2			
	フグ科	36 クサフグ										1	1		
合計種数		5	2	7	8	8	4	2	9	15	18	36	13	1	8

a

5.15 引地川

水系全体で8科21種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が10種（在来種：5種、国内外来種：3種、国外外来種：1種、不明種：1種）、通し回遊魚は9種、周縁魚は2種が確認された。全体の約48%を純淡水魚が占めていた。多くの魚種が出現した地点は、通し回遊魚とコイ科魚類を主体にした下流の地点で18種が出現した。多くの地点に出現した魚種は、ドジョウが4地点すべてに出現し、上流のSt.50では本種のみであった。国内外来種はオイカワとタモロコが3地点で確認され、個体数も多かった。国外外来種はグッピーが1個体確認された。希少種はキンブナが1個体、アブラハヤは上流のSt.51で多くの個体が確認され、出現種は合計8種であった。

表 5.15 引地川の出現種と個体数

科名	和名	St.50	St.51	St.52	St.53	出現地点数	希少種	外来種	
		東名横	草柳橋	中村橋	石川橋			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ			1	2	2			
コイ科	2 コイ			5	1	2	情報不足		国内
	3 キンブナ				1	1			
	4 キンブナ				1	1	絶滅危惧 I B類		
	5 オイカワ		100	147	198	3			国内
	6 アブラハヤ		689	72		2	準絶滅危惧		
	7 モツゴ		1	1	1	3			
	8 タモロコ		15	9	3	3			国内
ドジョウ科	9 ドジョウ	2	21	5	33	4			
アユ科	10 アユ			7	29	2			
カダヤシ科	11 グッピー		1			1		要注意外来生物	国外
メダカ科	12 メダカ		7	2	5	3	絶滅危惧 I A類		
ボラ科	13 ボラ				1	1			
ハゼ科	14 ポウズハゼ				11	1	準絶滅危惧		
	15 スミウキゴリ				6	1	準絶滅危惧		
	16 ウキゴリ				3	1			
	17 マハゼ				1	1			
	18 ゴクラクハゼ				3	1	準絶滅危惧		
	19 シマヨシノボリ			84	244	2			
	20 オオヨシノボリ		1	39		2	準絶滅危惧		
21 ヌマチチブ				56	1				
合計種数		1	8	11	18	21	8	1	4

5.16 相模川

水系全体で 16 科 46 種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が 31 種（在来種：12 種、国内外来種：13 種、国外外来種：5 種、不明種：1 種）、通し回遊魚は 12 種、周縁魚は 3 種であった。全体の約 67% を純淡水魚が占めていたが、在来種より国内外来種が多かった。多くの地点に出現した魚種は、アブラハヤが最も多く 31 地点、次いでウグイ、オイカワ、ヤマメ、シマドジョウ、アユ、トウヨシノボリの順であった。多くの魚種が出現した地点は、小鮎川の St. 81 の 20 種が最多で、次いで永池川の St. 93 の 19 種、小出川の St. 97 の 18 種、玉川の St. 88 の 17 種と相模川本流よりは比較的規模の大きな支流に多くの魚種が出現した。国内外来種はオイカワが 18 地点で最も多く、ビワヒガイとイトモロコは 1 地点のみであった。ドンコは 4 地点で確認されたが、その生態から分布を拡大させ、在来種への影響が懸念されている。国外外来種はニジマスが 4 地点、オオクチバスが 3 地点、カダヤシ、コクチバス、カムルチーのそれぞれが 1 地点で確認された。希少種は、スナヤツメ、アカザ、カマキリなど合計 18 種が確認された。純淡水魚で在来種のスナヤツメおよびアカザは、県内の他の水系からの記録も少なく、相模川水系が貴重な生息場所と考えられる。また、これらは 1 地点のみに出現し、確認個体数も少ないことから今後の動向を注視する必要がある。

表 5.16 相模川の出現種と個体数

科名	和名	St.54	St.55	St.56	St.57	St.58	St.59	St.60	St.61	St.62	希少種	外来種		
		小倉橋	昭和橋	神川橋下	塚橋	自然公園 センター 前	上沢井橋	千木良	日向(遊 魚園)	新大橋		法令による 区分	国内・国 外の区分	
ヤツメウナギ科	1 スナヤツメ										絶滅危惧 I B類			
ウナギ科	2 ウナギ	1	1	3										
コイ科	3 コイ										情報不足		国内	
	4 ゲンゴロウブナ												国内	
	5 ギンブナ		5											
	6 フナ属の一種													
	7 オイカワ	1	8										国内	
	8 カワムツ								105				国内	
	9 アブラハヤ		22		36	123	41	59	81	41	準絶滅 危惧			
	10 ウグイ	1	167				50		4		準絶滅 危惧			
	11 モツゴ													
	12 ビワヒガイ												国内	
	13 ムギツク		1										国内	
	14 タモロコ		1										国内	
	15 カマツカ	1	2								準絶滅 危惧			
	16 ニゴイ		4								絶滅危惧 II類			
	17 イトモロコ												国内	
	ドジョウ科	18 ドジョウ												
		19 シマドジョウ	78	11				2		10		準絶滅 危惧		
20 ホトケドジョウ											絶滅危惧 I B類			
ナマズ科	21 ナマズ										注目種		国内	
アカザ科	22 アカザ								1		絶滅危惧 I A類			
アユ科	23 アユ	2	10	47										
サケ科	24 ニッコウイワナ												国内	
	25 ニジマス				8							要注意 外来生物	国外	
	26 ヤマメ					47	25	12	15	29	絶滅危惧 I A類		国内	
カダヤシ科	27 カダヤシ											特定 外来生物	国外	
メダカ科	28 メダカ										絶滅危惧 I A類			
カジカ科	29 カマキリ			1										
	30 カジカ										絶滅危惧 II類			
サンフィッシュ科	31 オオクチバス											特定 外来生物	国外	
	32 コクチバス											特定 外来生物	国外	
ボラ科	33 ボラ			1										
ドンコ科	34 ドンコ												国内	
ハゼ科	35 カワアナゴ										絶滅危惧 I B類			
	36 ボウズハゼ			3							準絶滅 危惧			
	37 スミウキゴリ										準絶滅 危惧			
	38 ウキゴリ	18												
	39 マハゼ			5										
	40 アシシロハゼ													
	41 ゴクラクハゼ			13							準絶滅 危惧			
	42 シマヨシノボリ			27										
	43 オオヨシノボリ		2						1		準絶滅 危惧			
	44 トウヨシノボリ	47	2						13					
	45 カワヨシノボリ												国内	
46 ヨシノボリ属の一種	9		4											
47 ヌマチチブ	94	70	71											
タイワンドジョウ科	48 カムルチー											要注意 外来生物	国外	
合計種数		10	14	10	2	2	4	2	8	2	18	5	18	

表 5.16 相模川の出現種と個体数（続き）

科名	和名	St.63	St.64	St.65	St.66	St.67	St.68	St.69	St.70	St.71	希少種	外来種		
		緑の休暇村センター	青山水源 地盤	神ノ川・日 陰沢	西沢・水 泳所橋	道場	河原橋	馬渡橋	鮎津橋	早戸川・ 国際マス 釣り場		法令による 区分	国内・国 外の区分	
ヤツメウナギ科	1 スナヤツメ										絶滅危惧 IB類			
ウナギ科	2 ウナギ													
コイ科	3 コイ								1		情報不足		国内	
	4 ゲンゴロウブナ												国内	
	5 ギンブナ						1							
	6 フナ属の一種													
	7 オイカワ		3						46				国内	
	8 カワムツ		5					1	5				国内	
	9 アブラハヤ	7	23	1		265	42	33	34	3	準絶滅 危惧			
	10 ウグイ	61	7				26	11			準絶滅 危惧			
	11 モツゴ								1					
	12 ビワヒガイ												国内	
	13 ムギツク												国内	
	14 タモロコ								5				国内	
	15 カマツカ								4	6	準絶滅 危惧			
	16 ニゴイ										絶滅危惧 II類			
	17 イトモロコ												国内	
	ドジョウ科	18 ドジョウ												
		19 シマドジョウ	7	1				118	44	20		準絶滅 危惧		
20 ホトケドジョウ											絶滅危惧 IB類			
ナマズ科	21 ナマズ										注目種		国内	
アカザ科	22 アカザ										絶滅危惧 IA類			
アユ科	23 アユ						47	1	25					
サケ科	24 ニッコウイワナ			3						6			国内	
	25 ニジマス	1										要注意 外来生物	国外	
	26 ヤマメ	2		14	5					12	絶滅危惧 IA類		国内	
カダヤシ科	27 カダヤシ											特定 外来生物	国外	
メダカ科	28 メダカ								1		絶滅危惧 IA類			
カジカ科	29 カマキリ													
	30 カジカ	16	43	10	17	8		16			絶滅危惧 II類			
サンフィッシュ科	31 オオクチバス												特定 外来生物	国外
	32 コクチバス												特定 外来生物	国外
ボラ科	33 ボラ													
ドンコ科	34 ドンコ												国内	
ハゼ科	35 カワアナゴ										絶滅危惧 IB類			
	36 ボウズハゼ								1		準絶滅 危惧			
	37 スミウキゴリ								9		準絶滅 危惧			
	38 ウキゴリ						3	3						
	39 マハゼ													
	40 アシシロハゼ													
	41 ゴクラクハゼ										準絶滅 危惧			
	42 シマヨシノボリ								48					
	43 オオヨシノボリ	3						1	6		準絶滅 危惧			
	44 トウヨシノボリ	13	37				79	27	2					
	45 カワヨシノボリ	1	7										国内	
46 ヨシノボリ属の一種								1						
47 ヌマチチブ						8	37							
タイワンドジョウ科	48 カムルチー								1			要注意 外来生物	国外	
合計種数		9	8	4	2	2	9	12	15	3	18	5	18	

表 5.16 相模川の出現種と個体数（続き）

科名	和名	St.72	St.73	St.74	St.75	St.76	St.77	St.78	St.79	St.80	希少種	外来種		
		水沢川・水沢橋	宮ヶ瀬金沢・宮ヶ瀬	布川・唐沢川	布川・金沢キャンプ場	布川・境沢(林道終点)	本谷川・本谷橋	塩水川・塩水橋上流	南沢・おたき橋	善明川・ピオトーブ前		法令による区分	国内・国外の区分	
ヤツメウナギ科	1 スナヤツメ										絶滅危惧 I B類			
ウナギ科	2 ウナギ								3	1				
コイ科	3 コイ										情報不足		国内	
	4 ゲンゴロウブナ												国内	
	5 ギンブナ									4				
	6 フナ属の一種									4				
	7 オイカワ								2	356			国内	
	8 カワムツ								21	26			国内	
	9 アブラハヤ				22				92	158	準絶滅危惧			
	10 ウグイ								91	16	準絶滅危惧			
	11 モツゴ													
	12 ビワヒガイ												国内	
	13 ムギツク												国内	
	14 タモロコ										9		国内	
	15 カマツカ										14	準絶滅危惧		
	16 ニゴイ										2	絶滅危惧 II類		
	17 イトモロコ												国内	
	ドジョウ科	18 ドジョウ									18			
		19 シマドジョウ								5	28	準絶滅危惧		
20 ホトケドジョウ											絶滅危惧 I B類			
ナマズ科	21 ナマズ									2	注目種		国内	
アカザ科	22 アカザ										絶滅危惧 I A類			
アユ科	23 アユ							15	2					
サケ科	24 ニッコウイワナ			4	1	19	8	3					国内	
	25 ニジマス				2							要注意外来生物	国外	
	26 ヤマメ	37	31	54	3		8	6	3		絶滅危惧 I A類		国内	
カダヤシ科	27 カダヤシ											特定外来生物	国外	
メダカ科	28 メダカ										絶滅危惧 I A類			
カジカ科	29 カマキリ													
	30 カジカ	23	18		63				6		絶滅危惧 II類			
サンフィッシュ科	31 オオクチバス											特定外来生物	国外	
	32 コクチバス											特定外来生物	国外	
ボラ科	33 ボラ													
ドンコ科	34 ドンコ												国内	
ハゼ科	35 カワアナゴ											絶滅危惧 I B類		
	36 ボウズハゼ											準絶滅危惧		
	37 スミウキゴリ											準絶滅危惧		
	38 ウキゴリ								1					
	39 マハゼ													
	40 アシシロハゼ													
	41 ゴクラクハゼ											準絶滅危惧		
	42 シマヨシノボリ													
	43 オオヨシノボリ											準絶滅危惧		
	44 トウヨシノボリ								12	5				
	45 カワヨシノボリ												国内	
46 ヨシノボリ属の一種														
47 ヌマチチブ														
タイワンドジョウ科	48 カムルチー											要注意外来生物	国外	
合計種数		2	2	2	5	1	2	2	11	14	18	5	18	

表 5.16 相模川の出現種と個体数（続き）

科名	和名	St.81	St.82	St.83	St.84	St.85	St.86	St.87	St.88	St.89	希少種	外来種		
		第2鮎津橋	柿ノ木平川	狹野川・新道橋	籠堰橋	酒井橋	七沢川・二の橋	日向川・日向薬師	恩管川・長ヶ町橋	今橋		法令による区分	国内・国外の区分	
ヤツメウナギ科	1 スナヤツメ										絶滅危惧 I B類			
ウナギ科	2 ウナギ	2							1					
コイ科	3 コイ					6			3		情報不足		国内	
	4 ゲンゴロウブナ	1				1							国内	
	5 ギンブナ	8				14			5					
	6 フナ属の一種													
	7 オイカワ	243			224	37			442	10			国内	
	8 カワムツ												国内	
	9 アブラハヤ	21	280	153	31	18	86		65	9	準絶滅危惧			
	10 ウグイ	44			6	32			11		準絶滅危惧			
	11 モツゴ	2			3	1			7					
	12 ビワヒガイ					1							国内	
	13 ムギツク					5			7				国内	
	14 タモロコ				33				17				国内	
	15 カマツカ	10			75	17			22		準絶滅危惧			
	16 ニゴイ	9				4			11		絶滅危惧 II類			
	17 イトモロコ	1											国内	
	ドジョウ科	18 ドジョウ			9	34				7	2			
		19 シマドジョウ	18			101						準絶滅危惧		
20 ホトケドジョウ											絶滅危惧 I B類			
ナマズ科	21 ナマズ	2						1			注目種	国内		
アカザ科	22 アカザ										絶滅危惧 I A類			
アユ科	23 アユ	375			12	7		22						
サケ科	24 ニッコウイワナ												国内	
	25 ニジマス						2					要注意外来生物	国外	
	26 ヤマメ							75			絶滅危惧 I A類		国内	
カダヤシ科	27 カダヤシ											特定外来生物	国外	
メダカ科	28 メダカ										絶滅危惧 I A類			
カジカ科	29 カマキリ													
	30 カジカ		104		9						絶滅危惧 II類			
サンフィッシュ科	31 オオクチバス	5		1								特定外来生物	国外	
	32 コクチバス			1								特定外来生物	国外	
ボラ科	33 ボラ													
ドンコ科	34 ドンコ					1							国内	
ハゼ科	35 カワアナゴ										絶滅危惧 I B類			
	36 ボウズハゼ	6									準絶滅危惧			
	37 スミウキゴリ	4									準絶滅危惧			
	38 ウキゴリ													
	39 マハゼ													
	40 アシシロハゼ													
	41 ゴクラクハゼ										準絶滅危惧			
	42 シマヨシノボリ	12				9			2					
	43 オオヨシノボリ	3					3		24		準絶滅危惧			
	44 トウヨシノボリ	8				2			1					
	45 カワヨシノボリ												国内	
46 ヨシノボリ属の一種								4						
47 スマチチブ	7				20									
タイワンドジョウ科	48 カムルチー											要注意外来生物	国外	
合計種数		20	2	4	10	16	3	1	17	3	18	5	18	

表 5.16 相模川の出現種と個体数（続き）

科名	和名	St.90	St.91	St.92	St.93	St.94	St.95	St.96	St.97	出現地点数	希少種	外来種		
		新一の沢橋	馬船橋	道保川・一ノ関橋	平泉橋	上栗原橋	河原橋	大黒橋	新鶴峯橋			法令による区分	国内・国外の区分	
ヤツメウナギ科	1 スナヤツメ			3						1	絶滅危惧 I B類			
ウナギ科	2 ウナギ				1		15		13	10				
コイ科	3 コイ				2		5	7		6	情報不足		国内	
	4 ゲンゴロウブナ									2			国内	
	5 ギンブナ				14	1	11	2	29	11				
	6 フナ属の一種									1				
	7 オイカワ	125	121		534	7	88	1	5	18			国内	
	8 カワムツ									6			国内	
	9 アブラハヤ	111	4	159	7	244				31	半絶滅危惧			
	10 ウグイ		5		30	1	1		8	19	半絶滅危惧			
	11 モツゴ		2		14				5	8				
	12 ビワヒガイ									1			国内	
	13 ムギツク									3			国内	
	14 タモロコ				4	2	1			8			国内	
	15 カマツカ		6		15		2		1	13	半絶滅危惧			
	16 ニゴイ				50		5		27	8	絶滅危惧 II類			
	17 イトモロコ									1			国内	
	ドジョウ科	18 ドジョウ	5	40		3	2	1	9	9	12			
		19 シマドジョウ		1	5						15	半絶滅危惧		
20 ホトケドジョウ						92				1	絶滅危惧 I B類			
ナマズ科	21 ナマズ						1		2	5	注目種		国内	
アカザ科	22 アカザ									1	絶滅危惧 I A類			
アユ科	23 アユ		11				5	1		15				
サケ科	24 ニッコウイワナ									7			国内	
	25 ニジマス									4		要注意外来生物	国外	
	26 ヤマメ									17	絶滅危惧 I A類		国内	
カダヤシ科	27 カダヤシ							1	1		特定外来生物	国外		
メダカ科	28 メダカ				1		73			3	絶滅危惧 I A類			
カジカ科	29 カマキリ									1				
	30 カジカ									12	絶滅危惧 II類			
サンフィッシュ科	31 オオクチバス				1					3		特定外来生物	国外	
	32 コクチバス									1		特定外来生物	国外	
ボラ科	33 ボラ				3				22	3				
ドンコ科	34 ドンコ		27	2	3					4			国内	
ハゼ科	35 カワアナゴ								3	1	絶滅危惧 I B類			
	36 ボウズハゼ									3	半絶滅危惧			
	37 スミウキゴリ									2	半絶滅危惧			
	38 ウキゴリ									4				
	39 マハゼ								6	2				
	40 アシシロハゼ								1	1				
	41 ゴクラクハゼ				1		18		14	4	半絶滅危惧			
	42 シマヨシノボリ				1		31		11	8				
	43 オオヨシノボリ								1	9	半絶滅危惧			
	44 トウヨシノボリ		1		14					15				
	45 カワヨシノボリ									2			国内	
	46 ヨシノボリ属の一種									4				
	47 ヌマチチブ		3		1		11		18	11				
タイワンドジョウ科	48 カムルチー									1		要注意外来生物	国外	
合計種数		3	11	4	19	7	15	5	18	48	18	5	18	

5.17 金目川

水系全体で10科34種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が20種（在来種：11種、国内外来種：7種、国外外来種：1種、不明種：1種）、通し回遊魚は11種、周縁魚は3種であった。全体の約59%を純淡水魚が占めていた。多くの地点に出現した魚種は、アブラハヤが最も多く11地点、次いでオオヨシノボリの10地点、オイカワとシマヨシノボリが8地点であった。ハゼ科のヨシノボリ属2種が多く出現するという特徴があった。多くの魚種が出現した地点は、県内で最も多く出現した渋田川のSt.112の22種、次いで、本流のSt.105の19種で、主にコイ科魚類と通し回遊魚により構成されていた。国内外来種はオイカワなど7種が確認された。国外外来種はニジマスが上流の2地点で確認された。希少種はキンブナ、ホトケドジョウなど合計17種が確認された。

表 5.17 金目川の出現種と個体数

科名	和名	St.98	St.99	St.100	St.101	St.102	St.103	St.104	St.105	出現地点数	希少種	外来種	
		菩提(向山橋下)	養毛橋	弘法橋	大倉(滝沢キャンプ場上)	塚原橋	南平橋	吾妻橋	長持(新霞橋下)			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ			11			10	4	11	6			
コイ科	2 コイ			3			2		10	6	情報不足		国内
	3 キンブナ			2				1		5			
	4 キンブナ									1	絶滅危惧IB類		
	5 フナ属の一種									1			
	6 オイカワ			11			67	317	216	8			国内
	7 アブラハヤ	337		96	4	885	141		1	11	準絶滅危惧		
	8 ウグイ			175			24	2	1	7	準絶滅危惧		
	9 モツゴ									3			
	10 ムギツク									1			国内
	11 タモロコ								1	5			国内
	12 カマツカ								1	3	準絶滅危惧		
	13 ニゴイ								1	3	絶滅危惧II類		
	ドジョウ科	14 ドジョウ			1			1		3	7		
15 シマドジョウ				10			5	43	44	5	準絶滅危惧		
16 ホトケドジョウ										1	絶滅危惧IB類		
アユ科	17 アユ			2			14	5		6			
サケ科	18 ニッコウイワナ									1			国内
	19 ニジマス	1	5							3		要注意外来生物	国外
	20 ヤマメ		7	1	8					3	絶滅危惧IA類		国内
	21 アマゴ	5	37		5					3	絶滅危惧IA類		国内
メダカ科	22 メダカ								1	4	絶滅危惧IA類		
カジカ科	23 カマキリ									1			
	24 カジカ	63			367					3	絶滅危惧II類		
ユゴイ科	25 ユゴイ								1	1			
ボラ科	26 ボラ									1			
ハゼ科	27 ボウズハゼ							34	4	3	準絶滅危惧		
	28 スミウキゴリ						4	2	5	4	準絶滅危惧		
	29 ウキゴリ								6	2			
	30 マハゼ									1			
	31 ゴクラクハゼ								1	2	準絶滅危惧		
	32 シマヨシノボリ			361			358	1014	752	8			
	33 オオヨシノボリ	1		217	22	2	8		1	10	準絶滅危惧		
	34 ルリヨシノボリ			3	1					2	準絶滅危惧		
	35 ヌマチチブ						7	30	115	6			
合計種数		5	3	13	6	2	12	10	19	35	17	1	8

表 5.17 金目川の出現種と個体数（続き）

科名	和名	St.106	St.107	St.108	St.109	St.110	St.111	St.112	出現 地点数	希少種	外来種	
		大山ヶ ケープ ル下 (雲井橋)	子易(諏 訪裏橋)	神戸橋	大畑橋	九沢橋	歌川橋	青井橋			法令によ る区分	国内・国 外の区分
ウナギ科	1 ウナギ				3			2	6			
コイ科	2 コイ				12		5	14	6	情報不足		国内
	3 ギンブナ				10		58	24	5			
	4 キンブナ				1				1	絶滅危惧 I B類		
	5 フナ属の一種							1	1			
	6 オイカワ			1612	621		472	231	8			国内
	7 アブラハヤ		593	330		416	2	1	11	準絶滅 危惧		
	8 ウグイ			222			14	2	7	準絶滅 危惧		
	9 モツゴ				8		22	9	3			
	10 ムギツク						1		1			国内
	11 タモロコ			8	94		58	17	5			国内
	12 カマツカ						66	60	3	準絶滅 危惧		
	13 ニゴイ						3	7	3	絶滅危惧 II類		
	ドジョウ科	14 ドジョウ			5	85		33	3	7		
15 シマドジョウ				148					5	準絶滅 危惧		
16 ホトケドジョウ				13					1	絶滅危惧 I B類		
アユ科	17 アユ				3		2	22	6			
サケ科	18 ニッコウイワナ		2						1			国内
	19 ニジマス					1			3		要注意 外来生物	国外
	20 ヤマメ								3	絶滅危惧 I A類		国内
	21 アマゴ								3	絶滅危惧 I A類		国内
メダカ科	22 メダカ				31		185	27	4	絶滅危惧 I A類		
カジカ科	23 カマキリ							1	1			
	24 カジカ			2					3	絶滅危惧 II類		
ユゴイ科	25 ユゴイ								1			
ボラ科	26 ボラ							2	1			
ハゼ科	27 ボウズハゼ							2	3	準絶滅 危惧		
	28 スミウキゴリ						3		4	準絶滅 危惧		
	29 ウキゴリ							4	2			
	30 マハゼ							4	1			
	31 ゴクラクハゼ							8	2	準絶滅 危惧		
	32 シマヨシノボリ			188	409		110	334	8			
	33 オオヨシノボリ		4	21	6			1	10	準絶滅 危惧		
	34 ルリヨシノボリ								2	準絶滅 危惧		
	35 スマチチブ				2		4	24	6			
合計種数		0	3	10	13	2	16	22	35	17	1	8

5.18 葛川

水系全体で6科16種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が9種（在来種：5種、国内外来種：3種、国外外来種：1種）、通し回遊魚は7種で周縁魚は出現しなかった。多くの地点に出現した魚種は、アブラハヤ、ドジョウおよびシマヨシノボリで、全地点に出現した。多くの魚種が出現した地点は、コイ科魚類や通し回遊魚によって構成されていた。国内外来種はオイカワなど3種が確認された。国外外来種はオオクチバスが1地点で確認されたが、付近のため池からの流出と考えられる。希少種はアブラハヤ、オオヨシノボリなど合計8種が確認された。これまで、オオヨシノボリは支流の不動川での記録はない（永井・齋藤，2007）。

表 5.18 葛川の出現種と個体数

科名	和名	St.113	St.114	St.115	St.116	出現 地点数	希少種	外来種	
		井ノ口(上 中橋)	大応寺橋	下吉沢 (宮下川 合流後)	本郷橋			法令によ る区分	国内・国 外の区分
ウナギ科	1 ウナギ				35	1			
コイ科	2 コイ		36		27	2	情報不足		国内
	3 ギンブナ		1		14	2			
	4 オイカワ		243		73	2			国内
	5 アブラハヤ	3	17	20	3	4	準絶滅 危機		
	6 ウグイ				1	1	準絶滅 危機		
	7 タモロコ		1			1			国内
ドジョウ科	8 ドジョウ	309	4	33	26	4			
	9 シマドジョウ		1			1	準絶滅 危機		
アユ科	10 アユ				1	1			
サンフィッシュ科	11 オオクチバス				1	1		特定 外来生物	国外
ハゼ科	12 スミウキゴリ				2	1	準絶滅 危機		
	13 シマヨシノボリ	3	131	21	22	4			
	14 オオヨシノボリ			1		1	準絶滅 危機		
	15 トウヨシノボリ(偽橙色型)			1		1			
	16 ヌマチチブ				8	1			
合計種数		3	8	5	12	16	6	1	4

5.19 中村川

水系全体で8科18種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が10種（在来種：6種、国内外来種：3種、不明種：1種）、通し回遊魚は7種、周縁魚は1種であった。多くの地点に出現した魚種は、アブラハヤとドジョウで、全地点に出現した。多くの魚種が出現した地点は、コイ科魚類、ドジョウ科魚類および通し回遊魚で構成されていた。国内外来種はオイカワなど3種が確認された。国外外来種は確認されなかった。希少種はアブラハヤ、ホトケドジョウ、カマキリなど9種が確認された。出現魚種の半数が希少種で、希少種にとって重要な水系と考えられる。また、県内での出現が少ない絶滅危惧 IA に選定されているカマキリが確認された。

表 5.19 中村川の出現種と個体数

科名	和名	St.117	St.118	St.119	St.120	St.121	出現 地点数	希少種	外来種	
		高尾下	富士見橋	清岩寺上	坂呂橋	押切橋			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ					32	1			
コイ科	2 コイ				10	7	2	情報不足		国内
	3 ギンブナ				1	3	2			
	4 オイカワ		454	50	438	354	4			国内
	5 アブラハヤ	832	369	477	42	5	5	準絶滅 危惧		
	6 ウグイ					1	1	準絶滅 危惧		
	7 タモロコ				136	13	2			国内
ドジョウ科	8 ドジョウ	1	32	19	27	2	5			
	9 シマドジョウ		119	14	1	3	4	準絶滅 危惧		
	10 ホトケドジョウ		1				1	絶滅危惧 IB類		
アユ科	11 アユ					18	1			
メダカ科	12 メダカ			1		1	2	絶滅危惧 IA類		
カジカ科	13 カマキリ					4	1	絶滅危惧 IA類		
ボラ科	14 ボラ					4	1			
ハゼ科	15 ボウズハゼ				2	19	2	準絶滅 危惧		
	16 シマヨシノボリ		210	91	79	69	4			
	17 ルリヨシノボリ				2		1	準絶滅 危惧		
	18 ヌマチチブ					79	1			
合計種数		2	6	6	10	16	18	9	0	3

5.20 森戸川（小田原）

水系全体で8科20種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が11種（在来種：5種、国内外来種：4種、国外外来種：1種、不明種：1種）、通し回遊魚は8種、周縁魚は1種であった。多くの魚種が出現した地点は、コイ科魚類および通し回遊魚で構成されていた。なお、St.123では記録されなかった。国内外来種はオイカワなど4種が確認され、国外外来種はカラドジョウが1地点で確認された。希少種はキンブナなど合計10種が確認され、出現魚種の半数が希少種であった。キンブナ、スミウキゴリ、オオヨシノボリおよびルリヨシノボリは、出現個体数も少なかった。

表 5.20 森戸川（小田原）の出現種と個体数

科名	和名	St.122	St.123	St.124	出現 地点数	希少種	外来種	
		新幹線下	曾我谷津	親木橋			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ	10		12	2			
コイ科	2 コイ	1		32	2	情報不足		国内
	3 キンブナ	15		37	2			
	4 キンブナ	7			1	絶滅危惧 I B類		
	5 オイカワ	72		327	2			国内
	6 ウグイ	4		6	2	準絶滅 危惧		
	7 タモロコ	65		10	2			国内
	8 カマツカ	73		57	2	準絶滅 危惧		
ドジョウ科	9 ドジョウ	29		11	2			
	10 カラドジョウ	2			1		要注意 外来生物	国外
ナマズ科	11 ナマズ	5			1	注目種		国内
アユ科	12 アユ			14	1			
メダカ科	13 メダカ			5	1	絶滅危惧 I A類		
ボラ科	14 ボラ			2	1			
ハゼ科	15 スミウキゴリ	1			1	準絶滅 危惧		
	16 ゴクラクハゼ			29	1	準絶滅 危惧		
	17 シマヨシノボリ	18		8	2			
	18 オオヨシノボリ			4	1	準絶滅 危惧		
	19 ルリヨシノボリ			1	1	準絶滅 危惧		
	20 ヌマチチブ			65	1			
合計種数		13	0	16	20	10	1	5

5.21 酒匂川

水系全体で11科33種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が21種（在来種：11種、国内外来種：8種、国外外来種：1種、不明種：1種）、通し回遊魚は11種、周縁魚は1種であった。全体の約64%を純淡水魚が占めていた。多くの地点に出現した魚種は、アブラハヤが24地点で最多で、次いでヤマメの23地点、カジカの21地点であった。多くの魚種が出現した地点は、金瀬川のSt.164の16種で、多くはコイ科魚類であった。本流のSt.128を除き他の地点は、飯泉取水堰より上流にあるため、通し回遊魚が少なく、純淡水魚が主体の構成であった。国内外来種はオイカワなど8種が確認された。スゴモロコは酒匂川水系初記録で、コウライモロコは2例目である。国外外来種はニジマスが1個体確認された。希少種はスナヤツメ、ホトケドジョウ、カジカなど17種が確認され、本水系は、出現魚種の半数以上が希少種という状況であった。

表 5.21 酒匂川の出現種と個体数

科名	和名	St.125	St.126	St.127	St.128	St.129	St.130	St.131	St.132	St.133	St.134	St.135	St.136	St.137	St.138	希少種	外来種	
		河内川・山北道の駅前	十文字橋	鞆徳橋	小田原大橋上	新鮎沢橋	旧白石沢キャンプ場	東沢	西沢	大滝沢・峰山橋	中川温泉下	ユーンシローツチ前	仲の沢・小割沢橋	玄倉水位観測所	小菅沢橋		法令による区分	国内・国外の区分
ヤツメウナギ科	1 スナヤツメ															絶滅危惧I B類		
ウナギ科	2 ウナギ			1	10													
コイ科	3 コイ		2													情報不足		国内
	4 ギンブナ		1															
	5 オイカワ	34	39	43	139	1												国内
	6 アブラハヤ	43	19		1	38					96			14		準絶滅危惧		
	7 ウグイ	1	51	1		195					359			66		準絶滅危惧		
	8 モツゴ																	
	9 タモロコ				1													国内
	10 カマツカ		1	8	67												準絶滅危惧	
	11 ニゴイ																絶滅危惧II類	
	12 コウライモロコ					2												
13 スゴモロコ																		国内
ドジョウ科	14 ドジョウ				13						1							
	15 シマドジョウ	14		1	17	6					44						準絶滅危惧	
	16 ホトケドジョウ																絶滅危惧I B類	
ナマズ科	17 ナマズ			6	55												注目種	国内
アユ科	18 アユ																	
サケ科	19 ニッコウイワナ								1			46	8					国内
	20 ニジマス																要注意外来生物	国外
	21 ヤマメ						37	13	6	22		55	14	4	5		絶滅危惧I A類	国内
	22 イワナ・ヤマメ交雑種											1						
メダカ科	23 メダカ																絶滅危惧I A類	
カジカ科	24 カジカ	2					40	212		1	8				381		絶滅危惧II類	
ボラ科	25 ボラ				33													
ハゼ科	26 ボウスハゼ				6													準絶滅危惧
	27 スミウキゴリ																	準絶滅危惧
	28 ウキゴリ	1			1													準絶滅危惧
	29 コクラクハゼ				18													準絶滅危惧
	30 シマヨシノボリ			7	79													
	31 オオヨシノボリ																	準絶滅危惧
	32 ルリヨシノボリ																	準絶滅危惧
	33 トウヨシノボリ	4																
	34 スマチチブ				96													
	合計種数		7	6	7	15	4	2	2	2	2	5	3	2	3	2	17	1

表 5.21 酒匂川の出現種と個体数（続き）

科名	和名	St.139	St.140	St.141	St.142	St.143	St.144	St.145	St.146	St.147	St.148	St.149	St.150	St.151	St.152	希少種	外来種		
		金山沢・ 菰釣橋	一の沢・ 一の沢橋	浅瀬	白水沢・ 白水沢橋	千鳥橋	塩沢・集 落終点	3号橋	人遠橋	新樋口橋	工一橋	尾崎橋	県立山北 高校前	やどりき 水源林内	湯ノ沢橋		法令によ る区分	国内・国 外の区分	
ヤツメウナギ科	1 スナヤツメ															絶滅危惧 I B類			
ウナギ科	2 ウナギ																		
コイ科	3 コイ															情報不足		国内	
	4 ギンブナ																		
	5 オイカワ									2		106	242		20			国内	
	6 アブラハヤ			17				35	50	137	62	20	257		18	準絶滅 危惧			
	7 ウグイ							70				3	402		111	準絶滅 危惧			
	8 モツゴ																		
	9 タモロコ																	国内	
	10 カマツカ												11	6		準絶滅 危惧			
	11 ニゴイ															絶滅危惧 II 類			
	12 コウライモロコ																	国内	
	13 スゴモロコ																	国内	
	ドジョウ科	14 ドジョウ											2						
		15 シマドジョウ											11	9		2	準絶滅 危惧		
16 ホトケドジョウ																絶滅危惧 I B類			
ナマズ科	17 ナマズ															注目種		国内	
アユ科	18 アユ												2						
サケ科	19 ニッコウイワナ	12		3	1	7					1							国内	
	20 ニジマス			1														国外	
	21 ヤマメ	34	49	18	29	49	3	18	6	2	12	1				絶滅危惧 I A類		国内	
	22 イワナ・ヤマメ交雑種																		
メダカ科	23 メダカ															絶滅危惧 I A類			
カジカ科	24 カジカ			100	21	36	32	1	45	114	47	76	4	235	32	絶滅危惧 II 類			
ボラ科	25 ボラ																		
ハゼ科	26 ボウズハゼ																		
	27 スミウキゴリ																準絶滅 危惧		
	28 ウキゴリ																準絶滅 危惧		
	29 ゴクラクハゼ																準絶滅 危惧		
	30 シマヨシノボリ																		
	31 オオヨシノボリ																準絶滅 危惧		
	32 ルリヨシノボリ														3	準絶滅 危惧			
	33 トウヨシノボリ														3	準絶滅 危惧			
34 スマチチブ																			
合計種数		2	1	5	3	3	2	4	3	6	3	10	7	1	8	17	1	9	

表 5.21 酒匂川の出現種と個体数（続き）

科名	和名	St.153	St.154	St.155	St.156	St.157	St.158	St.159	St.160	St.161	St.162	St.163	St.164	出現 地点数	希少種	外来種		
		勘七橋	河内橋	文久橋 (水位観 測所)	川入橋	上河原橋	上総川・ 大瀬戸橋	太刀洗 川・栄橋	洞川・下 河原橋	分沢川・ 森と水の 公園上	仙了川・ 仙了橋	狩川橋	飯泉橋上			法令によ る区分	国内・国 外の区分	
ヤツメウナギ科	1 スナヤツメ										1			1	絶滅危惧 I B類			
ウナギ科	2 ウナギ							3			4	5		5				
コイ科	3 コイ										1	1	5	4	情報不足		国内	
	4 ギンブナ										1	3	3	4				
	5 オイカワ			109				554	151		426	30	69	15			国内	
	6 アブラハヤ		109	38		64	494	130	6	379	3	8	3	24	準絶滅 危惧			
	7 ウグイ		316	114		213		29	2		10		78	17	準絶滅 危惧			
	8 モツゴ										3		12	2				
	9 タモロコ								2		48	4	42	5			国内	
	10 カマツカ							25	16		3	4	26	10	準絶滅 危惧			
	11 ニゴイ										1	7	15	3	絶滅危惧 II類			
	12 コウライモロコ													1			国内	
	13 スゴモロコ												17	10	2		国内	
	ドジョウ科	14 ドジョウ		5					4		4			5	7			
		15 シマドジョウ		4	2										10	準絶滅 危惧		
16 ホトケドジョウ										80				1	絶滅危惧 I B類			
ナマズ科	17 ナマズ										1			1	注目種		国内	
アユ科	18 アユ			5							27		2	8				
サケ科	19 ニッコウイワナ													8			国内	
	20 ニジマス													1		要注意 外来生物	国外	
	21 ヤマメ	20	5		36	2								23	絶滅危惧 I A類		国内	
	22 イワナ・ヤマメ交雑種													1				
メダカ科	23 メダカ											1	1	絶滅危惧 I A類				
カジカ科	24 カジカ		121	3	48								21	絶滅危惧 II類				
ボラ科	25 ボラ										1		48	3				
ハゼ科	26 ボウスハゼ		12						4			14		6	準絶滅 危惧			
	27 スミウキゴリ											1		1	準絶滅 危惧			
	28 ウキゴリ													2				
	29 ゴクラクハゼ													1	準絶滅 危惧			
	30 シマヨシノボリ											4	3	4				
	31 オオヨシノボリ			5										2	準絶滅 危惧			
	32 ルリヨシノボリ			27									4	3	準絶滅 危惧			
	33 トウヨシノボリ					1								2				
	34 スマチチブ											1		2				
合計種数		1	9	6	2	4	1	5	7	3	15	12	16	34	17	1	9	

5.22 山王川

水系全体で8科20種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が9種（在来種：4種、国内外来種：4種、国外外来種：1種）、通し回遊魚は10種、周縁魚は1種であった。純淡水魚より通し回遊魚が多く、全体の50%を通し回遊魚が占めていた。多くの地点に出現した魚種は、アブラハヤとルリヨシノボリが全地点で確認された。多くの魚種が出現した地点は、コイ科魚類と通し回遊魚で構成されていた。国内外来種はオイカワなど4種が確認され、国外外来種はニジマスが1地点で確認された。希少種はアブラハヤ、カマキリなど12種が確認され、出現魚種の半数以上が希少種であった。また、県内での出現が少ない絶滅危惧IAに選定されているカマキリが確認された。

表 5.22 山王川の出現種と個体数

科名	和名	St.165	St.166	St.167	出現 地点数	希少種	外来種	
		下河原橋	星山橋	山王橋			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ		1	6	2			
コイ科	2 コイ			2	1	情報不足		国内
	3 オイカワ			80	1			国内
	4 アブラハヤ	465	208	2	3	準絶滅 危惧		
	5 ウグイ		8	25	2	準絶滅 危惧		
	6 カマツカ			1	1	準絶滅 危惧		
ドジョウ科	7 シマドジョウ		11		1	準絶滅 危惧		
アユ科	8 アユ		4	1	2			
サケ科	9 ニジマス	2			1		要注意 外来生物	国外
	10 ヤマメ	3			1	絶滅危惧 IA類		国内
	11 アマゴ	1			1	絶滅危惧 IA類		国内
カジカ科	12 カマキリ			5	1	絶滅危惧 IA類		
ボラ科	13 ボラ			10	1			
ハゼ科	14 ボウズハゼ		2	28	2	準絶滅 危惧		
	15 ミミズハゼ			1	1	情報不足		
	16 ウキゴリ			1	1			
	17 シマヨシノボリ		153	34	2			
	18 オオヨシノボリ		11		1	準絶滅 危惧		
	19 ルリヨシノボリ	1	69	1	3	準絶滅 危惧		
	20 ヌマチチブ			116	1			
合計種数		5	9	15	20	12	1	5

5.23 早川

水系全体で7科18種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が8種（在来種：4種、国内外来種：4種）、通し回遊魚は9種、周縁魚は1種であった。純淡水魚より通し回遊魚が多く、全体の50%を通し回遊魚が占めていた。多くの地点に出現した魚種は、アブラハヤが全地点で確認された。次いでウグイ、オイカワの順であった。多くの魚種が出現した地点は、コイ科魚類と通し回遊魚で構成されていた。なお、St.168は上流側に芦ノ湖が存在し、そこに生息するトウヨシノボリ（橙色型）とヌマチチブが確認されたことから、湖内に生息する魚類が流出した可能性もある。国内外来種はオイカワなど4種が確認されたが、国外外来種は確認されなかった。希少種はアブラハヤなど10種が確認された。

表 5.23 早川の出現種と個体数

科名	和名	St.168	St.169	St.170	St.171	St.172	St.173	St.174	出現地点数	希少種	外来種	
		仙石原	須雲川橋	紅葉ヶ丘下	旭橋	弥栄橋	三枚橋	早川橋			法令による区分	国内・国外の区分
ウナギ科	1 ウナギ						1	2	2			
コイ科	2 コイ	1							1	情報不足		国内
	3 オイカワ	20		7	40		110	12	5			国内
	4 アブラハヤ	66	66	112	30	27	76	44	7	準絶滅危惧		
	5 ウグイ	195		24	244	635	291	103	6	準絶滅危惧		
ドジョウ科	6 ドジョウ	2			2		2		3			
	7 シマドジョウ						269		1	準絶滅危惧		
アユ科	8 アユ							5	1			
サケ科	9 ヤマメ		36			4			2	絶滅危惧 I A類		国内
	10 アマゴ		7			1			2	絶滅危惧 I A類		国内
ユゴイ科	11 ユゴイ							2	1			
ハゼ科	12 ボウズハゼ				2		1	52	3	準絶滅危惧		
	13 スミウキゴリ							6	1	準絶滅危惧		
	14 シマヨシノボリ							164	1			
	15 オオヨシノボリ				3	1			2	準絶滅危惧		
	16 ルリヨシノボリ				39	9	45	62	4	準絶滅危惧		
	17 トウヨシノボリ(橙色型)	11							1			
	18 ヌマチチブ	4							16	2		
合計種数		7	3	3	7	6	8	11	18	10	0	4

5.24 新崎川

水系全体で8科18種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が6種（在来種：2種、国内外来種：3種、国外外来種：1種）、通し回遊魚は10種、周縁魚は2種であった。純淡水魚より通し回遊魚が多く、全体の約56%を通し回遊魚が占めていた。本水系は、放流魚であるサケ科魚種を除くと純淡水魚は貧相であるため、分布の主体は通し回遊魚で構成されていた。国内外来種は、ニッコウイワナなどサケ科の3種で、国外外来種もサケ科のニジマス1種であった。希少種はキンブナ、タカハヤなど10種が確認された。タカハヤは、本水系から白糸川水系が分布の東限と考えられている（石原，2001）。

表 5.24 新崎川の出現種と個体数

科名	和名	St.175	St.176	St.177	出現 地点数	希少種	外来種	
		幕山 (大石平)	鍛冶屋	吉浜橋			法令による 区分	国内・国 外の区分
ウナギ科	1 ウナギ			3	1			
コイ科	2 キンブナ			1	1	絶滅危惧 I B類		
	3 タカハヤ	24	320		2	絶滅危惧 I B類		
アユ科	4 アユ			8	1			
サケ科	5 ニッコウイワナ	5			1			国内
	6 ニジマス		1		1		要注意 外来生物	国外
	7 ヤマメ	15	8		2	絶滅危惧 I A類		国内
	8 イワナ・ヤマメ交雑種	1			1			
	9 アマゴ	9	3		2	絶滅危惧 I A類		国内
ユゴイ科	10 ユゴイ			2	1			
ボラ科	11 ボラ			1	1			
ハゼ科	12 ボウズハゼ			182	1	準絶滅 危惧		
	13 ミミズハゼ			3	1	情報不足		
	14 スミウキゴリ			24	1	準絶滅 危惧		
	15 ゴクラクハゼ			1	1	準絶滅 危惧		
	16 シマヨシノボリ			128	1			
	17 オオヨシノボリ		1	1	2	準絶滅 危惧		
	18 ルリヨシノボリ		24	97	2	準絶滅 危惧		
	19 ヌマチチブ			13	1			
合計種数		4	6	13	19	10	1	4

5.25 千歳川

水系全体で5科11種の魚類が確認された。そのうち、純淡水魚が4種（在来種：2種、国内外来種：2種）、通し回遊魚は7種で、周縁魚は確認されなかった。純淡水魚より通し回遊魚が多く、全体の約64%を通し回遊魚が占めていた。本水系も新崎川水系と同様に、純淡水魚は貧相で、分布の主体は通し回遊魚で構成されていた。また、上流では放流魚であるサケ科魚類のみの分布となり、上流の魚類相は、放流魚により維持されていた。国内外来種は、ヤマメとアマゴの2種で、国外外来種は確認されなかった。希少種はタカハヤなど8種が確認され、出現魚種の多くが希少種で占められていた。なお、タカハヤは、これまで本水系からの記録がなく（勝呂・瀬能，2006）、導入された可能性が考えられる。

表 5.25 千歳川の出現種と個体数

科名	和名	St.178	St.179	St.180	St.181	出現 地点数	希少種	外来種	
		紅葉橋	蛇態 (あげじ) 橋	落合橋	中河原橋			法令による区分	国内・国 外の区分
ウナギ科	1 ウナギ				3	1			
コイ科	2 タカハヤ			41	4	2	絶滅危惧 I B類		
	3 ウグイ				116	1	準絶滅 危惧		
アユ科	4 アユ				14	1			
サケ科	5 ヤマメ	29	56	2		3	絶滅危惧 I A類		国内
	6 アマゴ	1	7	1		3	絶滅危惧 I A類		国内
ハゼ科	7 ボウズハゼ				39	1	準絶滅 危惧		
	8 スミウキゴリ				23	1	準絶滅 危惧		
	9 シマヨシノボリ				117	1			
	10 オオヨシノボリ				1	1	準絶滅 危惧		
	11 ルリヨシノボリ			53	97	2	準絶滅 危惧		
合計種数		2	2	4	9	11	8	0	2

6 まとめ

平成20年から22年度にかけて神奈川県内25水系181地点において魚類調査を実施した。

・その結果、12目25科83種が記録された。分類群ごとの内訳は、ヤツメウナギ目1種、ウナギ目1種、ニシン目1種、コイ目26種、ナマズ目2種、サケ目6種、カダヤシ目2種、ダツ目1種、ヨウジウオ目2種、カサゴ目3種、スズキ目36種、フグ目2種であった。

スズキ目が確認種数全体の43.4%を占め、次いでコイ目が31.3%、その他が25.3%であった。

・生活史型では、純淡水魚が43種と出現魚種の約51.8%を占め最も多く、次いで通し回遊魚の22種、周縁魚の18種であった。

・出現水系の多い魚種は、ウナギが22水系と最も多く、次いで、アユの21水系、ヌマチチブの20水系、コイおよびスミウキゴリの19水系、オイカワ、ドジョウおよびシマヨシノボリの18水系であった。タイクバラタナゴ、ビワヒガイなど22種は1水系のみの出現で、そのうち純淡水魚の外来種が11種と多くを占めていた。

・水系別の種類数は、46種出現した相模川水系が最多で、次いで35種の境川、34種の金目川、33種の酒匂川、32種の鶴見川および田越川の水系であった。河川規模の大きな水系で多い傾向があった。出現魚種の少ない水系は松越川の7種、大岡川、宮川および侍従川水系の9種であった。これらの水系は、三浦半島地域と東京湾地域の小河川であった。

・出現地点の多かった魚種は、アブラハヤの108地点が最多で、次いでオイカワ74地点、ドジョウ71地点、シマヨシノボリ60地点、ウグイ59地点であった。アブラハヤは西湘地域と湘南地域の源流域を除いた多くのに出現した。ビワヒガイ、ホンモロコ、イトモロコ等18種は1地点のみの出現であった。このうちの多くは外来種で、その分布は限定的であった。その他は周縁魚が多く、過来的に進入してきたものが記録されたと考えられた。

・多くの魚種が出現した地点は、金目川水系 St. 112 の22種、次いで田越川水系 St. 32 と相模川水系 St. 81 の20種、滑川水系 St. 36、境川水系 St. 49、相模川水系 St. 93 および金目川水系 St. 105 の19種、引地川水系 St. 53 および相模川水系 St. 97 の18種であった。これらの地点の河川形態は、Bb型、Bb-Bc移行型およびBc型の3タイプだけで、比較的規模の大きな河川の中下流に多くの魚種が出現していた。出現魚種の少なかった地点は、宮川水系 St. 14、金目川水系 St. 106 および森戸川水系（小田原） St. 123 の0種、次いで、侍従川水系 St. 16 等の1種であった。これらの地点の河川形態は、Aa型、Aa-Bb移行型およびBb-Bc移行型の3タイプが見られたが、多くはAa型とAa-Bb移行型であった。

・出現魚種の少ない地点の魚種は、11種に限られ、その内訳は純淡水魚が8種、通し回遊魚が3種であった。純淡水魚のうち4種はサケ科魚種で、主に源流域で出現していたが、放流による二次的分布と考えられ、本来の源流域における生息魚種は、アブラハヤおよびカジカだけの限られた種と考えられた。

・外来種として、9科28種が確認され、全てが純淡水魚であった。そのうち10種が国外外来種で、ニジマスの5水系が最多で、次いでオオクチバス3水系であった。国内外来種は18種で、コイが最多で19水系、次いでオイカワが18水系で確認された。外来種が多く出現した水域は、相模川水系の18種が最多で、次いで鶴見川水系の10種であった。相模川水系の18種のうち、国内外来種が13種と多く、アユなどの種苗放流による混入や河川環境の多様性の相違などがその背景にあると推測された。

・出現した国内外来種は、コイ、ゲンゴロウブナ、キンギョ、オイカワ、カワムツ、ビワヒガイ、ムギツク、タモロコ、ホンモロコ、イトモロコ、スゴモロコ、コウライモロコ、ナマズ、ニッコウイワナ、ヤマメ、アマゴ、ドンコ、カワヨシノボリの18種であった。

・出現した国外外来種は、タイリクバラタナゴ、ファットヘッドミノー、カラドジョウ、ニジマス、カダヤシ、グッピー、ブルーギル、オオクチバス、コクチバス、カムルチーの10種であった。

・県RDBに掲載されている魚種（希少種）のうち、10科29種が確認された。出現した希少種は、純淡水魚の16種が最多で、在来の純淡水魚が多く確認されたが、一部の魚種では、個体数が少なく、生息域が限られるなど厳しい状況にあった。

・希少種が多く出現した水域は、相模川水系が最も多く18種、次いで金目川水系と酒匂川水系の17種で、県中央部から西部にかけて希少種が多い傾向が見られた。希少種の出現が少なかったのは、宮川水系の1種、侍従川水系と松越川水系の3種で、東京湾地域と三浦半島地域に少ない傾向が見られた。

・出現した希少種は、スナヤツメ、コイ、キンブナ、アブラハヤ、タカハヤ、マルタ、ウグイ、カマツカ、ニゴイ、シマドジョウ、ホトケドジョウ、ナマズ、アカザ、ヤマメ、アマゴ、メダカ、イッセンヨウジ、テングヨウジ、カマキリ、カジカ、カワアナゴ、ボウズハゼ、ミミズハゼ、スミウキゴリ、ウロハゼ、ゴクラクハゼ、オオヨシノボリ、ルリヨシノボリ、クロヨシノボリの29種であった。

7 謝辞

本調査を進めるに当たり、採集に多大な御協力をいただいた特定非営利活動法人 神奈川ウォーター・ネットワークの会員の皆様に感謝の意を表す。

さらに、本調査に快く御同意をいただくとともに、情報提供にも御協力をいただいた相模川漁業協同組合連合会、酒匂川漁業協同組合、湯河原観光漁業協同組合、早川河川漁業協同組合、川崎河川漁業協同組合および多摩川漁業協同組合の皆様に厚くお礼申し上げます。

また、ファットヘッドミノーの同定に御協力をいただいた独立行政法人水産大学校の酒井治己博士、マルタ幼魚の同定法について御教示いただいた公益財団法人長尾自然環境財団の渋川浩一博士の両氏に厚くお礼申し上げます。多くの御教示をいただいた兵庫県立川西緑台高等学校の鈴木寿之氏、神奈川県立生命の星・地球博物館の瀬能 宏博士、箱根町立森のふれあい館の石原龍雄氏、横須賀市自然・人文博物館の萩原清司氏および相模湾海洋生物研究会の木村喜芳氏の皆様に厚くお礼申し上げます。

8 参考文献

- 引用文献以外に、参考になる主な文献も掲載した。
- 明 仁・坂本勝一・池田祐二・岩田明久、2000. ハゼ亜目. 中坊徹次編, 日本産魚類検索 全種の同定 第二版, pp. 1139-1310, 1606-1628. 東海大学出版会, 東京.
- 青柳兵司, 1957. タモロコ. 財団法人淡水魚保護協会編, 日本列島淡水魚類総説 (復刻版, 1979) pp. 131-133. 大修館書店, 東京.
- Asai, T., Senou, H., Hosoya, K., 2011. *Oryzias sakaizumii*, a new ricefish from northern Japan (Teleostei: Adrianichthyidae). *Ichthyological Exploration of Freshwaters*, 22: 289-299.
- 厚木市教育委員会, 2008. 厚木市史資料叢書 7 厚木町事務報告書. 259pp. 厚木市教育委員会, 厚木.
- 後藤 晃, 1987. 淡水魚類—生活環からみたグループ分けと分布形成. 水野信彦・後藤 晃編, 日本の淡水魚—その分布, 変異, 種分化をめぐる一, pp. 2-15. 東海大学出版会, 東京.
- 秦野自然研究会, 1985. 秦野の淡水魚. 秦野市編, 秦野の自然—II (秦野市史自然調査報告書 2), pp. 130-141. 秦野市, 秦野.
- 萩原清司・齋藤和久, 1999. 森戸川感潮域で採集された魚類. 神奈川自然誌資料, (20):69-74.
- 萩原清司・齋藤和久・出島誠一・五十嵐大介, 2008. 逗子市田越川水系の魚類. 横須賀市博研報 (自然), (55):11-22.
- 浜口哲一, 1982. 相模川中下流域の魚類相. 平塚市博物館研究報告「自然と文化」, (5):35-48.
- 浜口哲一・長峯嘉之, 1987. 相模川中下流域の魚類相への追加と訂正. 平塚市博物館研究報告「自然と文化」, (10):1-8.
- 林 公義・浜口哲一・石原龍雄・木村喜芳, 1989. 神奈川県の上化魚類. 神奈川自然誌資料, (10):43-64.
- 林 公義・石原龍雄・君塚芳輝・長峯嘉之, 1984. 神奈川県淡水魚類分布資料・II. 横須賀市博物館報, (31):20-23.
- 林 公義・長峯嘉之・伊藤 孝・水野信彦, 1982. 神奈川県西部および伊豆半島の淡水魚類調査について (予報). 神奈川自然誌資料, (3):67-79.
- 樋口文夫・福嶋 悟, 2007. 鶴見川水系における谷戸水路と河川の人工構造物と魚類流程分布との関係. 横浜市環境科学研究所報, (31):40-55.
- 樋口文夫・福嶋 悟・宇都誠一郎, 2005. 大岡川の河川構造物が魚類流程分布に与える影響に関する調査報告. 横浜市環境科学研究所報, (29):30-57.
- 樋口文夫・渡辺勝敏, 2005. 横浜市内を流れる河川におけるアブラハヤの遺伝的多様性と交雑. 魚類学雑誌, 52:41-46.
- 石原龍雄, 2001. 小田原の淡水産魚類. 小田原市編, 小田原市史 別編 自然, pp. 321-329. 小田原.
- 石原龍雄・橘川宗彦・栗本和彦・上妻信夫, 1986. 箱根の魚類—エビ・カニ・貝類—. 259+11pp. 神奈川新聞社, 横浜.
- 石原龍雄・一寸木 肇, 1988. 箱根の魚類 追加目録. 大涌谷自然科学館調査研究報告, (8):1-5.
- 石原龍雄・山崎 泰, 2002. 魚類. 大井町編, 大井町史 別編 自然—大井町の動物—, pp. 85-99. 大井町, 大井町.
- 板井隆彦, 1982. 静岡県の淡水魚類. iv+208pp. 第一法規, 東京.
- Jordan D. S., S. Tanaka & J. O. Snyder, 1913. A catalogue of the fishes of Japan. *Journal of College*

- of Science, Imperial University of Tokyo*, **33**(1):1-497.
- 加地奈々・大浜秀規・三井 潔, 2007. 山梨県におけるヨシノボリ類の分布調査. 平成 19 年度山梨県立富士湧水の里水族館年報, 19-26.
- 神奈川県淡水魚増殖試験場, 1995. 平成 6 年度相模川水系魚類生息状況調査報告書. 22pls. +82pp. 神奈川県淡水魚増殖試験場, 相模原.
- 神奈川県小田原土木事務所・ドリスジャパン株式会社, 2005. 平成 16 年度中小河川改修工事公共 (その 1) 二級河川酒匂川・狩川河川水辺の国勢調査 魚介類調査報告書. 209pp 神奈川県小田原土木事務所, 小田原.
- 金子裕明・糸井史朗・山崎 泰・勝呂尚之, 2008. 丹沢山塊に生息するイワナの分布と系統. 神奈川自然資料, (29):113-120.
- 金子裕明・碓井昭司・勝呂尚之, 2007. 丹沢在来ヤマメの生息調査. 丹沢大山総合調査団編, 丹沢大山総合学術報告書, pp. 304-317, 財団法人平岡環境科学研究所, 相模原.
- 可児藤吉, 1944. 溪流棲昆虫の生態. 日本生物誌 昆虫上巻. 研究社, 東京. (1970 復刻. 可児藤吉全集全一卷, 3-91. 思索社, 東京.)
- 川那部浩哉・水野信彦・細谷和海, 2001. 山溪カラー名鑑日本の淡水魚. 山と溪谷社.
- 川那部浩哉監修, 1987. フィールド図鑑淡水魚. 186pp. 東海大学出版会, 東京.
- 木村喜芳, 1986. 滑川水系の魚類. 神奈川自然保全研究会報告書, (5) : 15-22.
- 木村喜芳, 2000. 茅ヶ崎市の淡水魚類相. 茅ヶ崎市文化資料館調査研究報告書, (8) : 1-26.
- 木村喜芳・齋藤和久, 1995. 神奈川県におけるヨシノボリ属 5 種の分布. ゴリ研究会講演要旨, 14.
- 国土交通省, 公表年不明. 河川環境データベース (河川水辺の国勢調査) . 国土交通省. Online. Available from internet. <http://www3.river.go.jp/> (downloaded on 2011-10-11).
- 国立環境研究所, 2012. 侵入生物データベース <http://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/> (2012 年 3 月ダウンロード) .
- 越川敏樹・佐藤仁志・水野信彦, 1985. 島根県におけるヨシノボリ類のすみ分け. 淡水魚, (11) : 100-107.
- 工藤孝浩・松田拓也, 1983. 相模川水系の魚類. 神奈川自然保全研究会報告書, (2) : 28-36.
- 工藤孝浩, 1984. 相模川水系の魚類—第 2 報—, 神奈川自然保全研究会報告書, (3) : 32-42.
- 黒崎陽一, 1982. 酒匂川水系の魚類. 神奈川自然保全研究会報告書, (2) : 37-44.
- Mabuchi, K., H. Senou and M. Nishida, 2008. Mitochondrial DNA analysis reveals cryptic large-scale invasion of non-native genotypes of common carp *Cyprinus carpio* in Japan. *Molecular Ecology*, 17: 796-809.
- Mabuchi, K., H. Senou, T. Suzuki and M. Nishida, 2005. Discovery of an ancient lineage of *Cyprinus carpio* from Lake Biwa, central Japan, based on mtDNA sequence data, with reference to possible multiple origins of koi. *Journal of Fish Biology*, 66:1516-1528.
- 藁宮 敦・安藤 隆, 2008. 相模川と中津川の魚類相 (1993-2005 年). 神奈川県水産技術センター研究報告, (3) : 1-24.
- 藁宮 敦・中川 研・勝呂尚之, 2006. 道保川 (相模川水系) に移入されたドンコの生息状況. 神奈川県水産技術センター研究報告, (1) : 65-71.
- 宮本真二, 2008. 縄文時代以降のナマズの分布変化. 川那部浩哉監修, 鯰 イメージとその素顔, pp. 34-46.

- 八坂書房, 東京.
- 水野信彦, 1963. カジカとカワヨシノボリの分布 とくに陸封と分化の特異性に関連して. 大阪学芸大学紀要, (11):129-161.
- 水野信彦, 1989. ヨシノボリ属. 川那部浩哉・水野信彦編・監修, 日本の淡水魚, p584. 山と溪谷社, 東京.
- 永井紀行・齋藤和久, 2007. 不動川水系の魚類. 神奈川自然誌資料, (28): 85-94.
- 永井紀行・齋藤和久・小林悦子, 2005. 金目川水系の魚類. 平塚市博物館研究報告「自然と文化」, (28):1-32.
- 中坊徹次編, 2000. 日本産魚類検索 全種の同定 第二版. I, II. lvi+pp. 1-866, vii+pp867-1748. 東海大学出版会, 東京.
- 中村守純・相澤裕幸, 1978. イトモロコとズナガニゴイの新分布地. 淡水魚, (4):28-29.
- 中村守純, 1955. 関東平野に繁殖した移植魚. 日本生物地理学会会報, 16-19: 333-337.
- 日本生態学会, 2002. 外来種ハンドブック. 地人書館.
- van Oijen Martien J. P., T. Suzuki, I-S. Chen, 2011. On the Earliest Published species of *Rhinogobius*. With a redescription of *Gobius brunneus* Temminck and Schlegel, 1845. *Journal of the National Taiwan Museum*, 66(1): 1-17.
- 沖津由季・勝呂尚之, 2001. メダカを中心とした小田原市桑原・鬼柳農業用水路の魚類. 神奈川自然誌資料, (22):51-59.
- 大島正満, 1957. 桜鱒と琵琶鱒. 79pp. 楡書房. 札幌. (1981 再録. 淡水魚別冊大島正満サケ科魚類論集, pp. 160-213. 淡水魚保護協会, 大阪.)
- 相模原市立相模川ふれあい科学館, 2003. トピックスギバチの子供発見. 相模川ふれあい科学館だより, (18):3.
- 相模湾海洋生物研究会, 1995. 横須賀市内河川の魚類相. 同編, 平成7年度横須賀市環境部委託事業横須賀市内河川水生生物基礎調査報告書, pp. 22-34. 相模湾海洋生物研究会, 横須賀.
- 相模湾海洋生物研究会, 1997. 淡水魚からみた丹沢の沢. 財団法人神奈川県公園協会・丹沢大山自然環境総合調査企画委員会編, 丹沢大山自然環境総合調査報告書, pp. 500-529.
- 齋藤和久, 1984. 神奈川県淡水魚類分布状況. 神奈川県の水生生物, 6: 133-166.
- 齋藤和久, 2004. 酒匂川水系鮎沢川の魚類. 神奈川自然誌資料, (25): 15-26.
- 齋藤和久, 2005. 酒匂川水系支川の魚類. 神奈川自然誌資料, (26): 87-94.
- 齋藤和久, 2006. 魚類. 石綿進一・齋藤和久編. 酒匂川水系の水生動物. 神奈川県環境科学センター.
- 齋藤和久・林 公義, 1999. 森戸川(三浦半島)におけるヨシノボリ類の分布様式と個体数増減. 神奈川自然誌資料, (20): 65-68.
- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之, 2010. 相模川水系の魚類相. 神奈川自然誌資料 (31): 59-68.
- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之, 2012. 酒匂川水系の魚類相. 神奈川自然誌資料 (33): 103-112.
- 齋藤和久・金子裕明・勝呂尚之・大竹哲男, 2012. 神奈川県内河川におけるヨシノボリ属魚類の分布. 神奈川自然誌資料 (33): 85-93.
- 齋藤和久・森上義孝・永井紀行・木村喜芳, 2008. 茅ヶ崎市の魚類. 茅ヶ崎市文化資料館調査研究報告, (17): 5-20.
- 酒泉 満・永井尚子・中村友香, 1999. 小田原産野生メダカの遺伝的モニタリング. 神奈川自然資料,

(20) : 61-64.

- 酒匂川文化財調査委員会, 1973. 酒匂川流域動物調査報告. 同 編, 酒匂川文化財総合調査報告書, pp. 172-197. 神奈川県教育委員会, 横浜.
- 作中 宏, 1983. 酒匂川の魚類について. 酒匂川, (18) : 18-30.
- 住倉英孝・勝呂尚之, 2008. 厚木市の河川魚類相(1999年~2007年の記録). 神奈川自然誌資料, (29) : 103-112
- 瀬能 宏, 2002. 日本に移入されたオオクチバス属魚類の分類. 日本魚類学会自然保護委員会編, 川と湖沼の侵略者ブラックバス—その生物学と生態系への影響, pp. 11-30. 恒星社厚生閣, 東京.
- 瀬能 宏, 2003. メダカ—安易な放流が自然史を汚す. 高桑正敏・広谷浩子・佐藤武宏・中村一恵 編, 侵略とかく乱のはてに一移入生物問題を考える—, pp. 96-103. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 瀬能 宏, 2007. 初声町三戸地区の谷戸の重要性. 自然科学のとびら, 13(4) : 26-27.
- 瀬能 宏, 2008. 外来魚と法規制. 瀬能 宏・松沢陽士編, 日本の外来魚ガイド, pp. 17-21. 文一総合出版, 東京.
- Stevenson, D. E., 2002. Systematics and distribution of fishes of the Asian goby genera *Chaenogobius* and *Gymnogobius* (Osteichthyes: Perciformes: Gobiidae). with the description of a new species. *Species Diversity*, 7: 251-312.
- 勝呂尚之, 2009. 魚類. 相模原市編, 相模原市史 自然編, pp. 333-349.
- 勝呂尚之・安藤 隆, 1996 a. 丹沢山塊における溪流魚の分布について—II. 神奈川県淡水魚増殖試験場報告, (32) : 37-60.
- 勝呂尚之・安藤 隆, 1996 b. 相模川支流の魚類相—I. 神奈川県淡水魚増殖試験場報告, (32) : 61-67.
- 勝呂尚之・安藤 隆, 2000. 神奈川県希少淡水魚生息状況—II (平成9・10年度). 神奈川県水産総合研究所研究報告, (5) : 25-40.
- 勝呂尚之・安藤 隆・戸田久仁雄, 1998. 神奈川県希少淡水魚生息状況—I (平成6~8年度). 神奈川県水産総合研究所研究報告, (3) : 51-61.
- 勝呂尚之・蓑宮 敦・中川 研, 2006. 神奈川県希少淡水魚生息状況—III (平成11~16年度). 神奈川県水産技術センター研究報告, (1) : 93-108.
- 勝呂尚之・中田尚弘, 1995. 丹沢山塊における溪流魚の分布について—I. 神奈川県淡水魚増殖試験場報告, (31) : 67-74.
- 勝呂尚之・瀬能 宏, 2006. 汽水・淡水魚類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久編, 神奈川県レッドデータ生物調査報告書, pp. 275-298. 神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原.
- 鈴木寿之・陳 義雄, 2011. 田中茂穂博士により記載されたヨシノボリ属3種. 大阪市立自然史博物館研究報告, (65) : 9-24.
- 鈴木寿之・向井貴彦・吉郷英範・大迫尚晴・鄭 達壽, 2010. トウヨシノボリ縞鰭型の再定義と新標準和名の提唱. 大阪市立自然史博物館研究報告, (64) : 1-14.
- 鈴木寿之・坂本勝一, 2005. 岐阜県と愛知県で採集されたトウカイヨシノボリ (新称). 日本生物地理学会誌, (60) : 13-20.

- 鈴木寿之・渋川浩一・矢野維幾, 2004. ヨシノボリ属. 瀬能 宏 監修, 決定版 日本のハゼ, pp. 445-461. 平凡社, 東京.
- 高村健二, 2013. 琵琶湖から関東の河川へのオイカワの定着. 日本自然保護委員会(編), 向井貴彦・鬼倉徳雄・淀大我・瀬能宏(責任編集), “見えない脅威” 国内外来種” どう守る地域の生物多様性, pp. 85-100. 東海大学出版会.
- 丹沢大山総合調査団編, 2007. 丹沢大山総合調査学術報告書. 794pp. 財団法人平岡環境科学研究所, 相模原.
- 東京都環境局環境評価部, 2003. 魚類. 同編, 平成13年度水生生物調査結果報告書, pp. 77-112. 東京都環境局環境評価部広域監視課, 東京.
- 塚本勝巳, 1994. 通し回遊魚の起源と回遊メカニズム. 後藤 晃・塚本勝巳・前川光司編, 川と海を回遊する淡水魚—生活史と進化—, pp. 2-17. 東海大学出版会, 東京.
- 上原伸一, 1980. 房総半島におけるヨシノボリの5色斑型の分布, 横須賀市博物館研究報告(自然科学), (27): 19-35.
- 上原伸一, 1984. 東北地方におけるヨシノボリ4型の分布. 横須賀市博物館研究報告(自然科学), (32): 33-49.
- 上原伸一, 1996. 伊勢湾沿岸地域におけるヨシノボリ属6種の分布. 魚類学雑誌, 43: 89-99.
- 上野原教育委員会, 1980. 上野原町町史. 500pp. 上野原町教育委員会.
- 山崎 泰・石原龍雄, 2002. 山北町の魚類. 山北町の自然 山北町史別編, pp106-117. 山北町.
- 横浜市環境科学研究所, 2009. 横浜の川と海の生物(第12報 河川編). Online. Available from internet: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/mamoru/kenkyu/shiryo/pub/d0010/> (downloaded on 2011-9-23).
- 横山尚秀, 2001. 小田原の陸水. 小田原市史 別編 自然, pp. 93-113. 小田原.
- 吉田晋也・水島未紀・木村喜芳, 1986. 白糸川水系の魚類. 神奈川自然保全研究会報告書, (5): 33-39.